

終末期でも在宅療養は可能ですか?



小松市民病院 緩和ケア病棟
看護師

地井 厚子 さん



訪問診療・看護との連携でOK。 家庭用の医療器具も進歩し、負担軽減に寄与しています。

がんの種類にもよりますが、疼痛治療や抗がん剤治療は近年、通院や訪問診療、訪問看護と連携することで可能になりました。家庭用の医療・介護器具の進歩も患者と家族の負担を軽減しています。小松市民病院の緩和ケア病棟は2009年に開設され、在宅療養に移行できたのは09年が9件、10年は4件、11年1件、12年5件、13年は11月までで3件となっています。退院に向けては家族、在宅医師と主治医、看護師、訪問看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、栄養士、介護士、福祉用具業者などが集まって「退院時カンファレンス(共同指導)」を行います。一度帰宅しても症状が悪化した場合には優先的に再入院が可能です。末期がん患者さんの場合、「自宅に帰りたい」という要望とご家族の受け入れ態勢をタイミングよく、うまく調整することが重要です。

退院時共同指導の内容について教えてください。

関係者によるカンファレンスの後、その結果は文書にして患者・家族に渡されます。

主な内容は下記の通りです。

- 療養生活(居住環境、食事、排せつ、清潔、ADL[日常生活動作]状況、睡眠など)
- 医療処置や服薬管理、医療機器の手配・管理・習得状況
- 訪問診療、訪問看護の訪問回数や希望する時間帯、利用するサービスの内容
- 家族へ在宅ケアで関わる関係者、病院側スタッフ紹介
- 患者さんの退院日、家に到着する時間帯等

退院までには、自宅をリフォームしたり、必要な医療機器や介護用品をレンタルした上で家族へ使用方法を指導するなど療養環境を整える必要があります。

緩和ケア病棟の看護師として、入退院退院時にどのような配慮をされましたか?

具体的例として、2度の在宅療養を経て緩和ケア病棟で終末期を迎えた60代女性の

乳がん患者Aさんの例を紹介しましょう。Aさんのご主人はすでに退職していましたが、認

知症の母親の介護もあり、Aさんは「帰りたいけど退院して夫に迷惑がかかるのでは」と不安を感じておられました。1度目の退院では家事についての助言をしました。Aさんは「調理、洗濯はしたい」と希望していましたから、洗濯室やキッチンに椅子を置くことなどを勧めました。足腰の筋力が低下し、再入院し、2度目の退院時には「要介護2」の認定を受けました。Aさんの在宅への思い、ご主人の思

いにずれがあり、すり合わせる作業を行うことで2度目の退院ができました。住宅をバリアフリー改修し、ポータブルトイレを設置、尿管カテーテルを導入して訪問看護師にケアを依頼した上で、ご主人の介護の限界や緊急時の対処方法について情報を共有しました。ご主人には、緊急時の対処方法などを教え支援体制を整えました。その後、胸に水がたまり、呼吸苦が現れ、入院して看取りとなりました。

家族の限界の見極めとは?

2度目の退院を検討している時、Aさんは「家に帰っても何もできない」、ご主人は「妻の願いはかなえてやりたいが、自分に介護ができるだろうか?」と悩んでいました。そこで日帰りでの外出を提案し、Aさんとご家族は富山へ桜を見に行かれました。ご主人は「思っ

た以上に(妻は)動ける」と判断され、お子さんの協力も得られたので退院が実現しました。まずは本人の希望を尊重し、家族が介護の状況を具体的にイメージできるようにすることが大切だと思います。

療養者の家族はどんな心構えで臨めばいいでしょうか?

家族のうちの誰か1人が、家族の思いを集約し、医療者側の声を家族全員に伝える「キーパーソン」になってほしいですね。私達はキーパーソンに話を聞き、時には励ましたり不安を取り除いたりしながら、患者の意思

と家族の気持ちにずれがないかを確認します。何か問題が発生した場合や、看取り期に近付いた時、キーパーソンが1人では参ってしまうかもしれないので、「身内や友人の中にキーパーソンを支える人」も必要です。

最後になりましたが、小松市民病院の緩和ケア病棟はどんな役割を担っていますか?

がん治療が困難とされる患者さんの身体的、精神的苦痛を和らげることを優先し、積極的な治療は行わず、家族と過ごす時間を大切にした専門病棟です。病床は10床ですべてトイレ付きの個室であり、白山を望むラウンジや、調理機器を備えたキッチン、宿泊も可能な「家族室」があります。担当医は毎日病室を訪れ、15人の病棟看護師は三交代で患者と家族を支援します。病棟ボランティアとの交流や、絵手紙教室が開催されるなど、患者さんと家族が温かい時間の中で、その人らしく生活できるよう配慮しています。

私は緩和ケア病棟の勤務を希望して、現職に就きました。病棟では最善のケアを尽くしていますが、多くの患者さんにとって「最善の場所」はわが家です。子や孫に囲まれて過ごしながら療養することは患者さんの安らぎになるでしょう。以前担当した40代の男性患者さんが、毎日決まった時間に自宅の方角を向いて立っておられた姿が今も脳裏に焼き付いています。患者さんの「帰りたい」という希望があれば、退院に向けて支援することは大切な役割だと思っています。

終末期の患者さんに寄り添うとは どういうことでしょうか?



小松市民病院 緩和ケア病棟
ボランティア団体「おひさま」代表理事

中島 捷純 さん
しょうじゆん

死の恐怖、疎外感による
感情を理解し納得、
安らぎへ導くお手伝いをしたい。



緩和ケア病棟の患者さんのケースでは、家族の面会が少ない場合や、そうでなくても死の恐怖などから疎外感が募った時、「自尊感情」を満たそうとする欲求が強く現れてきます。人生を振り返り、「自分はこんなふう生きてきた」と語り始めるのです。その時、私達は「ボランティアの出番だ」と語りに耳を傾けます。高度経済成長期に必死で働いてきた方の人生の物語をうなずきながら聞いた際には、とても感謝していただきました。語りに学ぶこともしばしばあります。

患者さんの生い立ちなどもじっくり聴き入ります。ただ聞くのではなく、「傾聴」するのです。相手の語りに注意を払って、より深く、丁寧に耳を傾けます。自分の知りたいことを聞くのではなく、患者さんが話したいこと、伝えたいことを、共感しながら真摯に聞きます。話の内容を理解するとともに、納得のいく結論に到達できるよう支えることが傾聴です。

これまでのキャリアで「傾聴」を学ぶ機会があったのですか?

もともと私は製鉄会社のサラリーマンで、定年退職後に小松市へUターンしました。1985年に起こった円高ショックのあおりを受けて会社がリストラに着手した際には、係長からプログラマーに配置換えされた社員の教育係を務め、「気持ちの切り替え」をするよう指導に当たりました。人事部と協力して精神

的に病んだ社員を支援する部署にいた時は、臨床心理士や精神科医から多くのことを学びました。これらの経験が緩和ケア病棟でのボランティアに活きていると思います。患者さんと向き合い、「自分ならどうしてほしいだろう」と考えながら行動しています。

ボランティアさんとの交流を拒絶する方や、 どう接したらいいのか分からない患者さんもおられることでしょう。

治療を続けることで生きる可能性を見出し、
ぎりぎりまで一般病棟で頑張ってみただけれど

万策尽き、緩和ケア病棟に来た時には口を開くのも
苦しい状態の患者さんの中にもおられ

ます。そうなる、なかなか手を差し伸べることは難しいのが現実です。病棟の中央にあるラウンジに出てきて私達と話をする患者さんは半数ほどでしょうか。しかし、患者さんと接点を結ぶことができなくても、ご家族の話し相手になることで間接的にかかわることができます。

また、ボランティアの定着率は決して高くはありません。「寄り添いたい」という気持ちで

ボランティアに挑戦したけれど、死期が間近にある方のそばに居ることがつらいと感じるメンバーもいます。このような方には、「非日常的な空間に日常を運んでくる」という病院ボランティアの原点に立ち返って、「ラウンジに居るだけで十分」と割り切り、飲み物の用意や部屋の飾り付けなどから始めるよう勧めています。

終末期医療についてどのようにお考えですか?

患者さんが納得するまで治療した後は、緩和ケア病棟で痛みをコントロールし、精神的な不安も除いた上で、タイミングを見て自宅療養に切り替えるのが理想だと思います。理想の実現には総合病院と地域医療・介護と家族の連携がうまくいかなければいけません。

加えて、私の個人的な意見としては、誰にも信心が必要だと考えます。北陸は真宗王国

といますけれど、日常生活の中に真宗が生きているという感覚はあまりない方もいらっしゃるかもしれません。日ごろから自分の意志で宗教を選択し、その教えを系統立てて学んでおくべきです。死を迎える時には、自分の選んだ宗教に来世を託そうという気持ちになることで安らぎが生まれるのではないのでしょうか。

ボランティア団体「おひさま」の活動について教えてください。

ボランティアは月、水、金曜日の午後2時から3時まで緩和ケア病棟を訪問し、医療ケア

チームの一員として患者さんとそのご家族を支援しています。主な活動は次の通りです。

- 喫茶サービスとして、ラウンジで飲み物を用意し、要望があれば病室に届ける。
- 患者さんやご家族の話し相手になる。
- 車いすでの散歩に同行する。
- 夏祭りなどの行事の運営を手伝う。
- 手芸、囲碁、将棋、音楽・DVD鑑賞などを一緒に楽しむ。
- 部屋の飾り付けなどを手伝う。
- マッサージをする。



「おひさま」のメンバーには誰でもなれますか?

ボランティアの実績や医療・介護の経験は問いません。心身ともに健康で、患者さんのプライバシーを厳守し、人の話を親身になって聞きける方なら誰でもどうぞ。ただし、親しい人を亡くして1年以上経過していない方には

ご遠慮いただいています。半日コースの養成講座で緩和ケア病棟の看護師や社会福祉士、臨床心理士などの講義を聴き、ボランティア登録したら活動が始まります。現在は22人が登録しており、うち19人が女性です。

小松でどのように在宅医療を進めてこられましたか?

医療法人社団見郷会理事長、
見谷内科医院院長

見谷 巖さん



80年代から訪問看護の必要性を痛感し、ステーション設立、普及に努めました。今後は医師同士の連携が課題です。

現在の在宅医療が診療報酬の上で評価されるようになったのは1988年からです。私が開業した82年ごろにはまだそのような概念はなく、往診の形でスタートしました。もちろん、訪問診療や訪問看護という制度はありません。介護が必要になった場合は入所が主体で、患者さんが重症化すると入院できる病院を探すのにひと苦労でした。家族だけで介護はできませんから、自治体が行っていた訪問介護を利用するケースもありました。

開業した直後は、「床ずれができた」という寝たきりの高齢者宅を毎日往診していました。元旦も患者さん宅に行きましたが、さすがに三が日すべては大変ですから、看護師さんに頼み込んで手伝ってもらいました。毎日の往診は医師、患者さんの双方にとって大きな負担であり、そのころから訪問看護の必要性を感じていました。

訪問看護は最初、見谷内科医院の「持ち出し」だったわけですね。それが社会のニーズと合致していった経緯について教えてください。

当時、看護師さんは「医師の補助をするのが仕事」という感覚が一般的でしたから、訪問看護を頼むことに抵抗がありましたよ。当院では「訪問看護手当」を支給して何とか協力してもらえよう努めました。そのうち、

1988年に厚生省(現厚生労働省)が在宅サービスの方向性を示し、89年に国が「老人保健福祉推進十か年戦略」(ゴールドプラン)を策定し、「在宅医療を推進していこう」という流れができました。92年に訪問看護ステーションが制度化されたのですぐに申請し、認められました。

小松市内で第一号となるステーションができたわけですが、認知度はまだ低かったので、その普及に努めました。2000年に介護保険制度が導入され、ご存知のように在宅系のサービスは整備されていきました。

在宅医療が現状に応じて整備されていったとすれば、まだまだ課題は多いのではないですか?

訪問看護は利用者の負担が割高なので、ケアプランの上ではどうしても後回しになるのが残念です。患者さんの健康管理やQOL(生活の質)の向上などの利点は多いので、早い時期からの利用が望ましいと思います。

かかりつけ医による24時間対応をどうするかも問題ですね。訪問看護ステーション

との連携は医師の負担を軽減してくれますが、医師1人での対応には限界があり、ほかの医師や複数の医療機関との連携が必要です。小松市医師会では医療機関が連携して在宅医療に取り組めるよう活動を始めましたが、「まだこれから」というところです。

国や行政が課題に対応していても、高齢化のスピードはそれを上回る勢いです。

超高齢化社会を迎え、爆発的に増える高齢者をどう支えるかは、日本の最大の課題でしょう。介護保険制度導入から10年が経過し、かなり定着してきたとはいえ、

団塊の世代が後期高齢者になった時、住み

慣れた地域で生活を継続できるようにする態勢づくり急務であり、地域包括ケアシステムの構築が課題です。特に在宅医療の充実が不可欠であり、かかりつけ医の支援も重要かと思えます。

小松における在宅医療・介護のニーズはいかがですか?

小松市内で2009年に実施された調査で、「介護が必要になった場合の暮らし方は?」という質問に、要介護認定を受けている方のうち46.6%、受けていない方のうち63%が「自宅で暮らしたい」と回答しています。とはいえ、家族の覚悟がないと成り立たないのが在宅療養・介護です。

小松市では入所系の施設の整備が十分なされており、幸い入所待機者も数十人とほかの市町村と比較して少ないと思います。在宅医療の潜在的なニーズは多いと感じますが、無理に在宅を勧めるのではなく、選択肢の一つとなるような体制づくりが必要でしょう。

見谷さんの考える「理想の在宅医療」とは?

自宅で最期を迎えた60代の女性がん患者Bさんの例を紹介しましょう。当院で腹水が発見され最初はなかなか診断がつかず、総合病院での検査を経て末期がんと診断されました。その後、通院の不便もあり、総合病院での治療から在宅医療へシフトしていきました。自宅で最期を迎えるにあたりご本人と家族は、今まで経験したことのない死の不安や恐怖があったと思います。しかし、ケアマネージャーや訪問看護師、医師を交えて何度も話し合いを続ける中で、在宅での看取りを受け入れていられました。

患者さんやその家族と信頼関係を構築することが何より大切だと思います。

また、先に述べた医師同士の連携は窮屈なものではなく、学会や急用が生じた時、気軽に頼める関係が構築できればと考えます。重症の患者さんの病状を早めに把握し、昼間のうちにケアできれば、あとは訪問看護ステーションとの連携を密にすることで1人での24時間対応も可能でしょう。これからも多職種が協力して在宅医療による看取りがスムーズに行われるよう努力していきたいと思えます。



訪問看護師の役割は何ですか?

医療法人社団愛康会
訪問看護ステーションはなはな所長(看護師)

田上 美智恵 さん

自宅療養の生活の質が向上するよう 本人や家族の要望を尊重しながら 予防から看取りまでを支えます。

療養生活を送っている方の自宅を訪問し、本人や家族の要望、ライフスタイルを尊重して QOL (生活の質) が向上するよう予防から看取りまでを支えます。その内容は、食事や運動、口腔ケア、排せつのケアなどの日常生活の支援から、医療機器を使用する方の管理(在宅酸素、胃ろう、点滴など)です。気管を切開している、ストーマ(人工肛門や人工膀胱)などを造設している、皮膚に潰瘍や床ずれがあるなどのさまざまなケースについてケア方法を判断し、対処します。

家族の健康状態もチェックし、医師と連携して健康課題を発見、病気の発症や重症化を防ぎます。歯科医師や薬剤師、理学療法士、ケアマネージャーなどとも連携を図り、必要サービスを取り入れて療養者と家族の負担軽減に努めます。

訪問看護を受けられる人は?

病気や障害のために療養生活の支援を必要とする方です。主治医が訪問看護の必要を認めた方で、乳幼児から高齢者までです。医療保険、介護保険、公的扶助、労災保険も利用可能です。具体的に病名を挙げると、廃用症候群(高齢者で寝たきりになる可能性のある状態)、認知症、糖尿病、リウマチ、パーキン

利用者の負担

介護保険	原則1割負担
医療保険	1~3割負担 ・就学前の乳幼児は2割負担 ・高齢者は所得により決定

両保険によるサービスが重複する場合は、原則として介護保険を優先

ソン病、慢性閉塞性肺疾患、心臓病、がん、難病などで、リハビリや服薬指導が必要な場合も訪問看護を利用できます。

訪問看護ステーションとは?

医療法人、社会福祉法人、医師会や看護協会、市町村、NPO 法人、営利法人などが知事の指定を受けて、介護保険法の指定居宅サービス事業者となり開設しています。小松

市内の訪問看護ステーションは、ほとんどが医療機関と連携しており、療養者の病状が急変した場合、訪問看護師は医師と連携して速やかに対応します。

退院準備をして初めて「訪問看護」というシステムを知る場合も多いのでは?

「退院したら、総合病院の看護師が自宅まで出張して来るの?」などと誤解されている方もいるかもしれませんね。先日、看取りを迎えた60歳代女性がん患者Cさんの例を紹介しましょう。Cさんは総合病院での治療をやめることに不安を抱えておられましたので、

「総合病院の治療を継続し、今後の急変に備えてかかりつけ医を確保して対応してもらう」と説明することから始めました。Cさんは訪問看護師とはいえ他人が家に入ってくることに抵抗を感じておられましたので、謙虚な態度で接することを心掛けました。

在宅療養で一番大きな不安は、病状が急変し、看取りを迎える段階です。 家族の不安をサポートする環境は24時間整っていますか?

訪問看護師は当番制で緊急の電話を受ける体制をとっています。「呼び出し」を受けて駆けつけると危篤状態という場合は一人で厳しい判断を求められますから、看護師は経験が必要であり、時間的に拘束されること少なくありません。

Cさんの娘さんは、和式トイレを洋式トイレに改修し、母の「息子の結婚式に出たい」という願

いを聞き入れ……と課題を一つ一つ乗り越えていきました。一方で、病状の悪化から常に不安と介護疲労を抱え、看取りの段階のギリギリまで緩和ケア病棟へ入院するかどうかを迷っていました。しかし、母の願いを受け入れて在宅で看取った後は「達成感」が得られたようで、感謝の言葉をいただきました。

訪問看護師として25年間歩んでこられた田上さんの思いを教えてください。

独身時代や結婚直後は総合病院に勤務し、子育てを契機に地域の個人病院に移りました。そこで訪問看護ステーションの立ち上げに携わり、祖父、姑、父などの介護を経験しながら小松市内で20年間在宅医療の現場を見てきました。総合病院では時間に追われる医療にストレスを感じていましたから、患者さんと濃密な時間を過ごす充実感を得ることができました。介護保険以前には、子連れで患者さん宅を訪問したヘルパーさんと懇意にな

るなど、地域で暮らしながら看護職に携わってきた経験は何にも代えがたいものです。

20年ほど前は高齢者が大家族の中で、ろうそくの灯が小さくなって消えていくように自然に亡くなっていくことが可能でした。一方で、がん患者の痛みのコントロールなどは、在宅ではまだ難しかったように思います。医療・介護が過剰になったのか、手厚くなったのかという判断は、一面的にはできませんね。

田上さんの考える「理想の在宅医療」とは?

近年、亡くなられた方を弔いに行くと、ご遺体のそばにだれもいないケースがあります。町内会や民生委員、介護サービスの関係者以外とのご縁が薄かったのでしょうか。療養者も介護者も元気な時は仕事や家事に忙しく、近所付き合いに時間をかけることができ

ないのが現実かもしれません。人間関係が希薄になってきていると痛感します。

家族だけで介護しては煮詰まってしまうものです。本人も家族も元気な時から人間関係を築き、支えられながら最期を迎えるのが自然な姿でしょう。

高齢者総合相談センターの業務について教えてください?

安宅・板津高齢者総合相談センター（センター長補佐）、
社会福祉士、主任介護支援専門員、准看護師

吉田 茂樹 さん



地域のお年寄りたちが安心して暮らせるよう、市内6か所の窓口で介護、福祉、医療などの相談を受けます。

高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）では、地域で暮らす高齢者が住み慣れた地域で生活していくことができるように、介護、福祉、健康、医療などの面から総合的に相談を受けています。市内6カ所に相談窓口を設け、専門の相談員が対応しています。

主な業務は、次の通りです。

① 包括的支援事業

地域の高齢者に関する総合相談支援、継続的な見守り、介護予防事業の対象者への訪問や教室の紹介、権利擁護に関する支援（成年後見制度・高齢者虐待・困難事例など）、いきいきサロンへの支援、ケアマネージャーへの相談支援など。

② 連絡調整業務

地域の関係機関との連携、地域住民と市をつなぐ役割など。

③ その他

介護保険における要支援認定で「要支援1・2」の方の指定介護予防支援業務（介護予防ケアマネジメント業務）など。

小松市内の高齢者総合相談センターの連絡先

丸内・芦城	〈校区〉 稚松、芦城、第一（上牧町、下牧町除く） 土居原町175 電話 (0761) 23-5225
安宅・板津	〈校区〉 安宅、犬丸、荒屋、能美（上牧町、下牧町含む） 安宅町1-8（ケアハウスファミール） 電話 (0761) 41-6055
松陽・御幸	〈校区〉 向本折、苗代、今江、蓮代寺、串、日末 向本折町31（松寿園） 電話 (0761) 22-2280
国府・中海	〈校区〉 国府、中海、東稜 岩淵町46-2（グリーン・ポート小松） 電話 (0761) 47-2921
松東	〈校区〉 金野、波佐谷、西尾 長谷町50-5（JAきらら前） 電話 (0761) 46-8211
南部	〈校区〉 符津、粟津、矢田野、木場、那谷、月津 上荒屋町4-10（自生園デイサービス） 電話 (0761) 65-3131

相談からどのように解決策が導かれるのですか?

安宅・板津高齢者総合相談センターでは毎月一回、地域連絡会を主催しています。医療、介護の関係者や町内会長、老人会長、民生委員などが集まり、一般の方も交えて地域で暮らす高齢者の個別課題から地域課題までと

らえて、その解決を目指しています。

高齢者からの相談がきっかけとなり、既存の施設やサービスを使うことで問題が解消されればいいですが、相談という形で問題が顕在化しない場合もあります。医療・介護の介入を

拒否したまま生活環境や病状が重症化していく、つまり「セルフネグレクト」ですね。このような案件を置き去りにしないことが大切で

す。地域連絡会の中で自主的に勉強会が発足し、テーマに興味のある方がさらに課題を掘り下げていく動きも生まれています。

「相談できない方」が抱える課題や「相談にならない案件」はどう掘り起こしていきますか?

センターの連絡会は通常、45人ぐらいが集まり、継続した活動で一定の成果を収めています。これとは別に、「つながるネット連絡会」を運営しています。この連絡会は高齢者総合相談センターの前身である「高齢者支援センター」の時から始めたもので、地域に出て行って、小学校の校区単位で住民の声を聞きます。グループワークやアンケートを実施し、医療・介護の関係者以外からもいろんな意見をいただいていますので、興味のある方はぜひ参加してみてください。

つながるネット連絡会を通じて「うちの公民館でこんな講座をやってくれないか」などの要望があり、センターの地域連絡会や勉強会の成果をお伝えしています。つまり、個々の例から地域での共通課題を抽出し、地域課題から必要な社会資源に繋げたり、新たな社会資源を開発したりする中で、もともとの個人レベルの問題の解決策に導くという二方向の流れをつくり、これからの医療・介護を支える地域力の強化に繋がりたいと考えています。

医療・介護を支える「地域力」とは?

同じ小松市内でも地域差、社会資源、ニーズが異なります。私が所属する社会福祉法人あさひ会ファミール（ケアハウス、居宅介護支援事業所、デイサービスセンター、ケアサービスセンター）がある安宅町の取り組みについて紹介しましょう。

地域の連合会長さんと連絡を取り合い、「安宅まつり」でみこしや獅子舞、曳き舟が練り歩くコースと時間を聞いて高齢者が施設前でまつりを楽しめるようにしました。連合会長さんには施設の運営会議に参加していただ

いています。

また、地域のコミュニティーセンターで実施されていた「安宅公民館祭り」を8年前から施設前の駐車場で開催しています。町の方と一緒に運営し、介護相談コーナーを設けたり、施設の栄養士が作ったデザートを提供したりしました。平日は売店やカフェを地域の方にも開放しており、「誰が来てもいい場所」として認知され、相談やサービスの利用につながるケースが増えました。

吉田さんにとって「理想の在宅医療・介護」とは?

「自分が高齢者になった時、子の負担を少なくするために課題を整理して老後を迎えなければ」と常に考えています。地域の方に「新しいことをしましょう」というのではなく、今、地域でできることをコーディネートし、個々の問題に対処しながら、その結果を受け止める

ことが必要です。「ピンチをサービス向上のチャンスに変える意識」ですね。

答えが見えない課題もたくさんあります。でも、私達が地域に出て行って行動を起こせば、解決のヒントは地域の方が下さると信じています。



ケアマネージャーの仕事は何ですか？

ケアマネージャー、
介護福祉士(デイサービス「そのまちサロン」)

中西 雅恵 さん

ケアプランを策定し、実施を支援。 要介護認定の申請代行や 体調・生活環境の変化に応じて見直しも行います。

本人・家族と面接(インターク)して要望を聞き、介護サービス計画(ケアプラン)を策定し、実施を支援します。要介護認定の申請代行業務やケアプランの策定、介護保険の支給限度基準額の上限管理、給付管理業務なども行っています。体調や生活環境の変化に応じて生活の課題を明らかにして(アセスメント)目標設定し、それに対する評価(モニタリング)を繰り返しながら、現在のプランがその人らしく生活ができるために適切かどうかを確認します。

「在宅療養が可能」となるまでには、どんな手続きが必要ですか？

総合病院の地域連携室やソーシャルワーカーから退院に先駆けて「患者さんが退院後、自宅での生活を希望している」との相談を受け、患者さんと家族の話し聞いて必要な情報を提供します。介護申請を行っていない場合は、主治医に意見書を依頼し、要介護申請の段取りを進めます。ベッドのレンタルや住宅改修などが必要な場合は、福祉用具レンタルなどを紹介し、本人・家族と一緒に適応策を考

えます。

サッカーチームにたとえると指揮を執る監督が本人・家族でコーチがケアマネ、選手はサービス事業者であり、みんなで本人・家族が「望む暮らし」というゴールを目指します。ケアマネはあくまでも裏方で、選手が困った時や監督から意見を求められた時に適切なアドバイスを助言をする仕事です。

ケアプランを作成する際、本人・家族の要望と病院からの指示はどのように反映されますか？

80代女性Dさんの例を紹介しましょう。Dさんは身の回りのことは自立している介護保険適用外の方でした。交流を求めて私の在籍する「そのまちサロン」を自費で利用されて

いました。ある時、脳梗塞を発症し入院されました。本人は「早くそのまちサロンの皆さんに会いたい」と強く希望され、家族からは「自宅の風呂は狭く、一人では入れない」「自分が留

守の時に一人にできない」と相談を受けたので、病院に連絡を取り、退院に向けて地域連携室から情報提供を受けました。主治医からは退院後も失語症のリハビリを継続するよう

指示を受け、それに基づきコミュニケーション倶楽部(失語症リハビリ)、趣味活動、他者との交流などができるサービスを受けることができるよう調整しました。

ケアプランは本人・家族の状況に合わせて見直されていくのですね。

利用者の体調や生活環境が変化した時などに随時見直しを行います。例えば、自宅に閉じこもりがちで妻以外との交流がほとんどなく、寝たり起きたりの生活により転倒を繰り返していた方に、まずは生活スタイルの見直しを行い、将来的には妻以外の人と交流できるよう、きっかけ作りから始めました。昇降式座椅子と屋外用歩行器のレンタルと訪問リハビリを導入したことで生活動作がスムーズになり、横になることが減ったので転倒もなくなりました。自分から積極的に行動し、自分が何を

したいかを伝えられるようになり、当初の目標は達成されたので、次の段階に進むためのケアプランに変更しました。

その方は、若い頃から地域のお世話やパソコンを得意としていたこともあり、最近新しいIT機器を使うことに取り組む気持ちを示されるようになりました。地域にある通所リハビリをいくつか体験し、自分に合った所を選択され利用されています。地域にあるさまざまなサービスの特徴を理解し、利用者複数の選択肢を提案できるように心掛けています。

これまでの経験から心掛けていることなどを教えてください。

本人・家族の小さな変化を見逃さないことや、本人・家族・事業者の話を聴き、「その人らしい生活とは何か」を考え続けることを大切

にしています。そのために、心に余裕を持つことを心掛けています。

中西さんにとって「理想の在宅医療・介護」とは？

本音は家で最期を迎えたいと思っても、「家で看られなくなったら施設でいいよ」と家族に話す方が少なくありません。家族に迷

惑が掛かることを気にしての言葉であり、病気や老いに対する悪いイメージが先行しているように見受けました。家族だけで抱えていては解決しない問題でも、本人の本音に寄り添い、自分らしく住み慣れた地域で最期を迎えたい気持ちをくみ取り、最善の方法を一緒に考え、実現できるようにしたいと思っています。そのためには本音で語り合う環境づくりや、本人・家族の不安が軽減できる情報提供なども大切です。病気や老いを理解して助け合うことができる地域社会になることが理想です。

「小規模多機能型施設」の特徴は何ですか?

小規模多機能型施設「いちえんそう」
管理者(介護支援専門員・介護福祉士)

金津 志保 さん



住み慣れた家のように、
同じ敷地内で「通い」「泊まり」「訪問」などの
介護サービスを組み合わせ提供します。

「小規模多機能型施設」とは、利用者が住み慣れた家・地域での生活を継続できるように複合的に介護サービスを提供する場です。ご本人や介護者の状況や要望に応じ、主に三つのサービスを組み合わせ提供します。

- 通い(デイサービス) ● 泊まり(ショートステイ) ● 訪問(ヘルパーによる支援)

例えば、認知症の方は利用する施設が変わると混乱することがありますが、場所と職員が変わらなければ、そのような不安を軽減することができます。また、「泊まり」に抵抗がある方には「通い」の延長のような流れで「泊まり」を勧めることができます。末期がんなど医療依存度が高い方はケアを手厚くし、医療機関との連携を深めながら「看取り」を迎えることが可能です。「小規模多機能」だからこそさまざまな変化を受け入れ、柔軟に対応できるのです。

小規模多機能型施設を利用する際のシステムはどうなっていますか? 料金や定員などについて教えてください。

小松市内には現在、7カ所の小規模多機能施設があります。要介護度に合わせて1カ月の利用料が定められており、ご本人の状態や介護者の状況に応じてサービスの内容と頻度を選びます。

「いちえんそう」の場合、登録者の上限は25人で、1日あたりの定員は通いが15人、泊まりは9人です。看護師、介護職員、ケアマネージャーなどさまざまな資格を持つ職員がサポートし、医師の往診や訪問看護と合わせて、24時間365日の安心感を提供します。

小規模多機能型施設のサービス利用料
(介護保険対象内、2014年4月の消費税率変更にもなう算定案による)

要介護度	自己負担額(1カ月)
要支援1	4,498円
要支援2	8,047円
要介護1	11,505円
要介護2	16,432円
要介護3	23,439円
要介護4	25,765円
要介護5	28,305円

施設によって加算があり、食費や滞在費などの別途負担が必要です

在宅での「看取り」には不安があります。
療養者が自力でほとんど何もできなくなって死期を迎える時、
家族は立ち往生してしまうのではないのでしょうか。
どのようなサービスが有効ですか?

療養者の方は徐々に自宅にいる時間が短くなり、「通い」から「泊まり」へと移行していきますが、「泊まり」は施設への入所ではありません。数時間でも自宅に帰ることができるよう配慮し、家族の方に面会にきていただけるように働きかけるなど、家や地域との絆が途切れないようにしています。

先日、ずっと在宅で過ごされてきた方のご

家族の負担が大きいと感じたので「泊まり」を提案し、入浴のサービスを提供しました。療養者は心身がすっきりし、ご家族は休息を得ることができて心の整理がついたのでしょうか。これが最後の入浴となり、その後看取りを迎えられたご遺族は、ある種の納得感や達成感を持っておられたようでした。

「小規模多機能型施設」に求められる役割についてどのように考えますか?

同じ所で「通い」と「泊まり」が利用できることから、ほかの利用者や職員と顔なじみになり、信頼関係を築いていくことができます。年月を重ねることで個々の利用者の要介護度が高くなり、利用回数料も増えていきます。利用者の皆さんとともに歳を重ねていくことが

私達スタッフの喜びです。

ご本人・ご家族のさまざまな要望に耳を傾けながらサービスプランをともに考え、生活の形づくりを支援していきたいと考えています。

金津さんの考える「理想の在宅介護」とは?

住み慣れた家、家族や思い出、地域の中で過ごすことができることだと思います。「いちえんそう」には2008年4月の開設当時から携わり、ご本人と介護者に寄り添うサービスを心掛けてきました。職員の定着率も高く、やりがいを感じられる職場です。

ご本人と介護者のニーズは日々、変化します。一緒にいたいと思う気持ちを尊重することで幸せを感じていただけるように思います。独居の方についても地域との連携や訪問により、支援体制をつくり上げています。それぞれの思いを結ぶことで「理想の在宅介護」は実現すると考えています。



認知症とはどのような病気ですか?

医療法人社団恵仁会 恵仁クリニック院長
小松市医師会理事

村井 裕さん

脳の細胞が死んで障害が起こり、生活に支障をきたします。予防、早期発見・治療で先手の対応が大切です。

認知症はさまざまな原因で脳の細胞が死んだり、働きが悪くなったりしたために障害が起こり、生活に支障をきたす状態をいいます。

認知症を引き起こす病気には、脳の神経細胞がゆっくりと死んでいく(変性疾患)最も多いアルツハイマー型認知症をはじめ、レビー小体型認知症、前頭・側頭型認知症などがあり、その他に、脳梗塞、脳出血などのために神経細胞に血流が行き渡らなくなる脳血管性認知症があります。

65歳以上の認知症患者は2012年度末で460万人を超え、認知症になる可能性がある軽度認知障害(MCI)も約400万人以上いると推測されています。50歳前後の1組の夫婦にとっては4人の両親のうち、確率的に少なくとも1人は認知症になると考えられ、どの家庭にも起こりうる問題となっています。予防、早期発見、早期治療で現状を維持できるよう先手を取って対応していくことが大切です。

具体的には脳がどう変化し、どんな症状が起こるのですか?

記憶は「興味」を持ったものについて「理解」し、「反復」することで脳に蓄積されていきます。この中で理解から反復までの中期記憶をつかさどる海馬がうまく機能しなくなってアルツハイマー型認知症が起こるのです。

認知症には「中核症状」と呼ばれるものと、「周辺症状」と呼ばれるものがあります。「中核症状」は脳の神経細胞が壊れることによって、直接起こる症状です。主な症状としては①新しいことを覚えられないなどの記憶障害 ②日時や自分がいる場所が分からなくなる見当識障害 ③計画が立てられなくなるなどの

実行機能障害 ④理解できない行動を取る異常行動などが挙げられます。一方、周囲の人との関わりのなかで起きてくる症状を「周辺症状」といいます。症状としては、ものを盗られたなどの妄想や徘徊、意欲低下、不安による身体の不調、暴言、暴力などがあります。

認知症は中核症状が進行するにつれていろいろなことが認識できなくなり、放っておくと10数年で食べ物も認識できなくなり死に至ります。暴力行為や徘徊などは初期症状を見逃して治療が遅れ、周りの不適切な対応から起こると分かっています。認知症患者でも感

情をつかさどる部分は最後まで健在なので、初期の段階で物忘れなどを非難されたりする

と、その時の嫌な感情が残ってしまうので問題行動が起こるのです。

早期発見、治療ポイントについて教えてください。

物忘れが起こるのは老化現象の一つです。「朝ごはん、何食べたっけ?」と思いつけなくなるのはおそらく老化による物忘れでしょう。しかし、「朝ごはん、食べたっけ?」となるなど、記憶の欠落が起こると認知症を疑う必要があります。高齢者ばかりではありません。65歳未満で発症する若年性認知症の患者は全国で約3万8000人と推定されています。自分自身や家族、友人が「認知症では?」と思った

ら1人で悩まず専門家に相談し、介護保険などのサービスも積極的に活用してください。早期発見・治療により細胞死を防ぐことができれば、病状の進行を遅らせることができます。

薬が合わなかったり、睡眠薬や安定剤、鎮静剤の過剰な投薬によって認知症が悪化するケースもあるので気をつけましょう。

認知症患者を取り巻く環境はどうなっていますか?

本人や家族、周囲の人の「気付き」を促すため、小松市内では次のような取り組みが進められています。

①市民:「認知症サポーター養成講座」で認知症について正しい知識を学びます。地域福祉推進員が民生委員と協力して地域の認知症患者を見回る「認知症地域見守り活動事業」を実施しています。

②看護職、介護職: 認知症の専門家を養成するTeam Dementia(チームディメンシア、コーディネーターは村井さん)が発足、医療・介護の従事者や行政職員などが認知症に関する専門的な知識を身につけています。

③医師: 小松市の勤務医と開業医の垣根を越え、若手医師が集まって定期的に勉強会を

開催しています。認知症もよくテーマに挙がり、早期発見や適切な治療について理解を深めています。生活習慣病の治療が認知症の予防に効果的であることを患者さんやご家族にも説明しています。

④民間企業:「地域見守りネットワーク」が形成され、配達業務などを行う業者は、日ごろの業務の中で住民の異変に気付いた場合、行政に連絡を取り、行政は高齢者総合相談センターと連携して対応します。

認知症予防10か条

- 1 塩分、動物性脂肪を控えたバランスのよい食事をとる
- 2 適度に運動して足腰を丈夫にする
- 3 深酒とたばこをやめて規則正しい生活をおくる
- 4 生活習慣病の予防・早期発見・治療を心がける
- 5 転倒による頭の打撲に注意する
- 6 物事に興味や好奇心を持つように心がける
- 7 考えをまとめて表現する習慣をつける
- 8 細かい気配りをしたよい付き合いを
- 9 いつも若々しくおしゃべりを忘れずに
- 10 クヨクヨしないで明るい気分で生活する

(財)ほけ予防協会まとめから

最近の研究で認知症は高血圧や糖尿病、高脂血症などの生活習慣病が影響していると分かっています。塩分や動物性脂肪を控えた食事や、適度な運動、酒やたばこを控えるなど日ごろから健康に気を配る生活を心掛けましょう。予防のための10か条を参考にしてください。

頸髄損傷のため四肢にまひ Oさん(69歳男性)の場合

64歳の時に労災事故で頸髄損傷を負い、首から下がまひしています。長年にわたり県外の工事現場を転々とする生活を送ってきたため、「家族と一緒に過ごしたい」という願いをかなえる形で在宅療養をスタート、介護者の妻、娘夫婦、孫2人と同居しています。



Oさんのプロフィール

Oさん：69歳

病名：頸髄損傷による四肢のまひ、神経因性膀胱、睡眠時無呼吸症候群

要介護度：5

療養状態：夜間のみ尿管カテーテルと経鼻的持続陽圧呼吸療法を使用

意思疎通：可能

同居する

家族の構成：主たる介護者は妻（69歳）、娘夫婦、孫2人

保険の種類：介護保険、国民健康保険被保険者、労災保険

療養の経過

2008年に落下してきた鉄骨で首の後ろを強打し、新潟労災病院に2カ月、小松市のやわたメディカルセンターに8カ月入院した後、在宅療養となりました。作業療法士と理学療法士が来てリハビリテーションの指導を受け、マッサージをしてもらっています。入院中はまったくの寝たきり



でしたが、おかげで車いすに乗り、両手を動かせるようになりました。右手で箸やスプーンを握り左手を添えて食事をしたり、木工芸に取り組んだりしています。13年秋、まひに伴う副作用の痙性(けいせい)が起こり、体が硬直して息ができず、血圧が低下したので、しばらく外出を控えています。

1週間のケアプラン

	月	火	水	木	金	土	日
午前	デイサービス	訪問看護	デイサービス	訪問看護	デイサービス	訪問看護	
午後							
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・介護者の負担を軽減するため、適宜ショートステイを利用 ・月2回木曜日に医師の診察 ・月に2回訪問リハビリテーションを利用 						

※在宅リハビリテーションでは、全身状態の確認や機能回復・維持訓練、日常生活動作(A DL)訓練、福祉用具の選定、住宅環境の改善、解除方法の助言・指導を行う。訪問する療法士・看護師は主治医らと連携し、身体・精神機能を維持・回復するため、症状や住宅環境に合わせた個別のプログラムを作成・提案、実施する。

Oさんを支えるサービス

訪問看護
週3回、1回につき 90分

全身状態の観察と管理、リハビリ、膀胱留置カテーテル管理、皮膚のケア、全身清拭・マッサージ、口腔ケア、排せつケアと観察

訪問診療
月2回

診察、処方など

デイサービス
週3回

食事、入浴介助、社会交流、工作

ショートステイ
月2回

食事、入浴介助、社会交流、摘便、ナイトバルーンの管理

訪問リハビリテーション
月2回

関節可動域評価、環境調整、異常評価、プッシュアップ評価、自主トレ確認など

療養者の声

夫 ▶ 定年退職してやっと家族と暮らせる」と思っていた矢先に遭った事故でした。今、孫との会話が一番の楽しみです。一緒に生活していれば、「行ってきます」「ただいま」と元気な声を聞くことができます。一度は何もできなくなったけれど、つらいリハビリを経て少し手先が動くようになりました。最近はピンセットを使って松かさを目鼻を付けたり、木の実で造花をこしらえたりと木工芸を楽しむまでになりました。

体の不自由な家族がいることを隠したいと思う方もいるかもしれません。でも、うちの孫2人は友達に「この人、僕のおじいちゃんだよ」と恥ずかしくせずに紹介してくれます。消防車のサイレンが聞こえると兄の方が方向を確認し、「もし、出火場所が近いようならおじいちゃんを連れて逃げる」と言ってくれています。頼もしいですね。在宅療養を選んでよかったです。

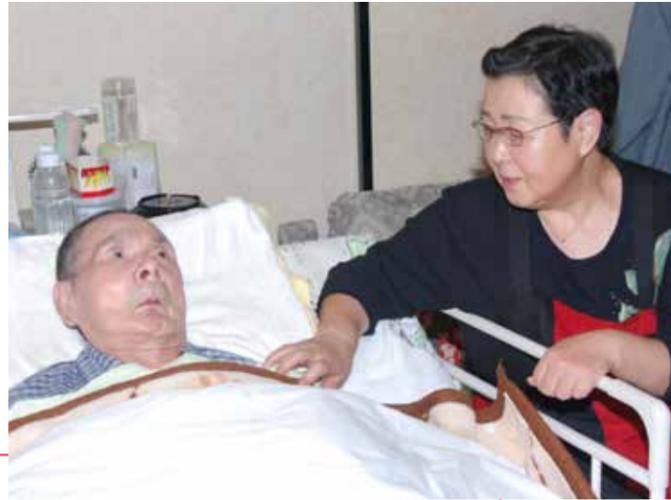
介護者の声

妻 ▶ 夫が労災に遭った直後は私も過労で心身ともボロボロになりました。夫は冷静で、事故の原因となるミスを起こした同僚をまったく責めず、「事故に遭ったのが、若い者でなく自分でよかった」とさえ言いました。わが夫ながら、「よくそんな気持ちになれたな」と感心します。

車いすの昇降台を取り付けるなど自宅をリフォームし、夫を外に連れ出すよう努めています。うつや認知症になってほしくはありません。痙性が起こった後、私も夫も外出には少し消極的になっていますが、落ち着いたらまた連れ出そうと思います。ちょっとした異変にも訪問看護師さんがすぐ対処してくださって安心です。夫がショートステイを利用している時は友人とランチをして、コーヒーを飲むのが気晴らしですね。

胃ろうによる経管栄養で療養 Kさん(70歳男性)の場合

自宅の階段での転落事故から一度は日常生活に復帰しましたが、物忘れなどが激しくなり、アルコール依存症や糖尿病など複数の疾病を抱えて寝たきりとなり、胃ろうによる経管栄養で在宅療養中。主たる介護者の妻、息子夫婦、孫2人と同居しています。



Kさんのプロフィール

Kさん：70歳

病名：アルコール関連疾患（依存症、認知症、肝硬変）、廃用症候群、嚥下障害、2型糖尿病、肺気腫、前立腺肥大症

要介護度：5

療養状態：寝たきり、胃ろう

意思疎通：自分で体を動かすことも意志を伝えることもほとんどできない

同居する

家族の構成：主たる介護者は妻（69歳）、息子夫婦、孫2人

保険の種類：介護保険、国民健康保険被保険者

※胃ろうとは、栄養を投与するため胃に設けた穴、または胃に穴を設ける手術のことをいう。経口で飲食できない場合や、口に食物が入ると誤嚥（ごえん）を起す可能性のある人に適用される。

胃ろうの増設は局所麻酔をして胃から表皮までを貫く直径数ミリの穴を開けて管を通して留置し、ここから栄養剤を入れる。

療養の経過

2005年に自宅の階段で転落して頭を強打し脳挫傷となりました。退院後は記憶障害などが起こり、定年退職して生活習慣が変化したために飲酒量が増えてアルコール依存や肝硬変、糖尿病を発症するなど、さまざまな症状が現れました。入退院を繰り返すうちに栄養の摂

取は流動食で、排せつも自分ですることが難しくなり、寝たきりになっていきました。誤嚥性肺炎を繰り返したため、11年末に胃ろうからの栄養摂取に切り替えました。

まだ70歳で若いと思ったので施設ではなく在宅療養をするを選びました。

1週間のケアプラン

	月	火	水	木	金	土	日
午前	デイサービス		訪問看護		デイサービス		
午後							
その他	・月1回5日間から1週間ショートステイを利用						

Kさんを支えるサービス

訪問看護
週1回、1回につき1時間

全身状態の観察と管理、吸たん、皮膚のケア、全身清拭・マッサージ、口腔ケア、排せつケアと観察など

訪問診療
月2回

診察、処方、胃ろうの管理など

デイサービス
週2回

胃ろうの管理、入浴介助、吸たん

ショートステイ
月1回（4泊5日～6泊7日）

胃ろうの管理、入浴介助、吸たん



介護者の声

妻 ▶私は子育ての苦労もなく、親、舅と姑の介護も経験しませんでした。その分、「夫の介護をしなくてはいけないのだろう」と考えるようにしています。台所や玄関を改修して家事や移動の負担が小さくなるようにしました。時々、愚痴っぽくなるのは、私自身に腰痛や腱鞘炎があり、精神安定剤を服用するなど、少し心身が弱ってきているからかもしれません。

夫は若い時、事故で歯をなくし、今は入れ歯です。誤って飲み込まないようにと入れ歯を外していますから、ほおがこけて年齢よりずっとおじいちゃんに見えるでしょ。でも70歳ならまだ若い。だから施設に入れてしまうのはかわいそうだと思います。在宅療養を選びました。家は一生に一度の買い物というけれど、夫は二度も家を建てました。それだけ家には思い入れがあるのでしょう。

夫が食べ物をうまく飲み込めなくなり、胃ろうをする時、医師から「どうしますか?」と聞かれました。まだ70歳です。「しません」とは言えませんでした。一生悔いが残る気がしたのです。重い選択でした。「こんなに頑張っているのだから生きてほしい」という思いは常にあります。

遠方に行く用事ができたり、私の体調がよくなかったりした時にはショートステイを利用します。夫は吸たんをしなければいけないので、預かってくれる施設が限られていることに時々不便を感じます。より多様なサービスが充実していくことを願っています。

脳性まひの特別支援学校生 Nさん(18歳女性)の場合

脳性まひにより四肢の麻痺があります。特別支援学校高等部の3年生で、電動車いすを使い、特別仕様のマウスによってパソコンを操作するなど、18歳の若い好奇心を満たすべくアグレッシブに日常生活を送っています。両親、妹、祖父母と同居しています。



Nさんのプロフィール

Nさん：18歳

病名：脳性まひ

障害程度区分：5（身体障害者手帳1級）

現在の状態：日中は座位保持椅子に座って過ごし、食事、排せつなどの介助が必要

意思疎通：日常会話は可能

同居する家族の構成：主に母親（40代）が介助し、父、双子の妹、祖父母

保険の種類：国民健康被保険者、障害福祉サービスを利用

※障害福祉サービスを利用する場合は、障害者総合支援法に基づいて「サービス等利用計画」が必要となる。本人や家族は小松市の「ふれあい福祉課」に相談して福祉サービスや事業所についての情報提供を受け、市にサービス利用を申請。市の担当者

と相談支援専門員は認定調査を行った上でサービス等利用計画案を作成、本人や家族の承認(署名)を得て市が支給を決め、受給者証が発行される。

これまでの経過

出生時は低体重児であり、生後2カ月で急性脳炎を発症、脳性まひになりました。「地域の中で過ごしたい」との思いがあったので小松市に働きかけて、地域の保育所や小・中学校に通いました。現在は県内の特別支援学校高等部に在籍してい

す。かねてから本人には「自宅以外の場所で忙しく、充実した時間を過ごしたい」との意志が強く、授業が終わってからは「放課後等デイサービス」を利用しています。



▲Nさんが作った「元氣新聞」

1週間のケアプラン

	月	火	水	木	金	土	日
就学時間	特別支援学校	特別支援学校	特別支援学校	特別支援学校	特別支援学校	デイサービス	自宅
放課後	デイサービス	リハビリ	デイサービス	デイサービス		デイサービス	自宅
夜間	自宅	自宅	自宅	自宅	自宅	自宅	自宅
その他	・デイサービスは3カ所を特色に分けて利用						

介護者の声

母 ▶娘は自宅を起点に出かける予定を立て、毎日忙しくいろんなことに取り組む生活に充実感を得ています。デイサービスの送迎や入浴サービスがあるので助かっています。学校やデイサービス以外の外出には私が同行し、映画や図書館、ショッピング、喫茶などを楽しみます。家族だけの介護にならぬようサービスを活用しています。

小、中学校時代は、障害の有無にかかわらず、双子の妹と同じ環境で教育を受けさせたいと考え、行政側に働きかけてきました。障害のある姉は妹に支えられながらも、気持ちは対等であってほしいと思います。

中学時代に経験した修学旅行は大きなチャレンジでした。私が付き添わず、事前に行く先々でボランティアさんをお願いして、支援してもらいました。親による介助には時間と体力の問題から限界があり、将来に不安を感じています。「社会の中での自立を促しながら、娘をどう支えていくのか」を親子ともども考える機会として、「付き添いなしの修学旅行」に挑戦したのです。これからも家族以外の人と外出する機会を増やしていきたいと思います。

娘は石川県のリハビリセンターに依頼して設計してもらった特性マウスで画面を動かすことができます。特別支援学校では「元氣新聞」という学校行事を紹介する新聞の制作を担当しています。IT機器や福祉用品は少しずつ進歩したけれど、まだまだ道具の工夫が必要です。高額なのが悩みですね。座位保持いすは特別注文で、成長に沿って作り替えます。公費の補助はありますが、より生活しやすい仕様にするためには自己負担も必要です。

Nさんを支えるサービス 〈学校の授業、地域での活動も含む〉

**特別支援学校の授業など
週5回**

数学、国語、外国語、情報(パソコン操作)、自立活動(マッサージ)など

**デイサービス
月23日**

入浴介助、食事、温泉プール、トイレ介助、制作など

本人の希望を尊重し、送迎の有無や施設の特徴、などを考えて3施設を使い分けている

事業所 A	事業所 B	事業所 C
17日	4日	2日
学校との送迎あり 入浴可能 電動車いす使用可	家族が送迎 プール療法 医療機関に併設 電動車いす使用不可	学校との送迎あり 医療機関に併設 電動車いす使用可 リハビリ施設と同じ建物

**重度障害児と親の会「こくまの会」の
ミュージック・ケア参加
月1回**

**障害児の遊びスペース「小松おもちゃ
図書館サン・アビ」でボランティア
年数回**

**「虹をよぶコンサート」実行委
年1回**

パーキンソン病で寝たきり Tさん(84歳女性)の場合

パーキンソン病で寝たきりとなり、胃ろうによる経管栄養で在宅療養中。療養者、主たる介護者の夫とも80代の二人暮らしで、週末には金沢市内に住む長男、長女の支援を得ています。



Tさんのプロフィール

Tさん：84歳女性

病名：パーキンソン病（大脳皮質基底核変性症）

要介護度：5

療養状態：胃ろうと尿管カテーテルを使用

意思疎通：自分で体を動かすことも言語障害により意志を伝えることもほとんどできない

同居する

家族の構成：主たる介護者は夫（87歳、要支援2だがサービスは受けていない）

保険の種類：介護保険、国民健康保険被保険者

※パーキンソン病は16特定疾患の一つなので65歳未満でも介護保険サービスが利用できる。ただし、訪問看護は「厚生労働大臣の定める疾病等」に当たるため、医療保険給付となる。さ

らには、特定疾患治療研究対象疾患に該当するため、特定疾患医療受給者証により、介護・医療ともに基本利用料相当額は公費となる。

療養の経過

妻は2007年ごろからパーキンソン病を発症、徐々に全身の運動機能が衰えて食が細くなり、発語や嚥下が難しくなったため、翌年に胃ろうからの栄養摂取に切り替えました。その後、発語や嚥下が難しくなるといった進行が著しい状態にあります。最近では顎関節脱臼も起

き、訪問診療、通院で対応しています。

介護者の夫は糖尿病でインシュリンによる治療を継続中です。

現在は「老老介護」です。建築家の娘さんが設計した家への愛着があり、「夫婦で住みたい」との思いから在宅療養を希望されました。

1週間のケアプラン

	月	火	水	木	金	土	日
午前	朝・夕に訪問看護、	訪問看護	訪問看護	朝・夕に訪問看護、	訪問看護	訪問看護	訪問看護
午後	デイサービス	訪問看護	訪問看護	デイサービス	訪問看護	デイサービス	
夜間	・毎日午前12時半から1時ごろヘルパーによる安否確認						
週末	・金沢市内に住む長男または長女が訪問、夕方の栄養注入などを行う ・土曜は隔週でデイサービスを利用						
その他	・火水木金の3泊4日で月に2回ショートステイを利用 ・金曜に月2回医師による診察						

介護者の声

夫 ▶妻は編み物ができなくなったことがショックだったようです。その後どんどん動けなくなりました。昔は何か言うと「ハイ！」ってすぐ気持ちのいい返事してくれたのに、今は「うー」としか言いません。何かちょっとでもしゃべってくると張り合いが出るんですけどね。

施設に入れることも考えたけれど、夫婦で60年連れ添ってきたので離れたくありませんでした。私自身も自転車に乗れなくなったり、火を使うのが怖くなったり、電話をかけるのが難儀になったりと衰えを感じる中、皆さんに助けていただいています。だから私はできるだけ、サービスを受けなくて頑張るつもりです。

訪問看護師 ▶保健、医療関係者はケアマネジャーを通して情報を交換し、排便があったかどうかやなど連絡事項をノートに書いて伝達しています。ご主人が本当によくやっておられると思います。言葉によるコミュニケーションはもう難しいですが、奥さんの様子を観察して頭痛薬を使うなど、細やかに気配りされています。

ケアマネジャー ▶排便については、訪問看護師とデイサービスの担当者が綿密に連絡を取って、ケアの際に便器でウォシュレットを使ってできるようにしています。ご主人に紙おむつを交換する負担がないようにするための配慮です。なぜなら奥様の「夫に下の世話をさせたくない」という強い思いを知っているからです。高齢のご夫婦がお互いを思いやる気持ちを大切にしたいと思います。

Tさんを支えるサービス

訪問看護
週7回、1回につき60分

全身状態の観察と管理、膀胱留置カテーテル管理、胃ろうからの栄養注入、皮膚のケア、全身清拭・マッサージ、口腔ケア、排せつケアと観察など

訪問診療
月2回

診察、処方、膀胱留置カテーテルの交換、胃ろうの管理など

デイサービス
週2回

胃ろうの管理（水分補給）、排泄ケア、入浴介助など

ショートステイ
月2回（1回につき3泊4日）

胃ろう、留置カテーテル管理、排泄ケア、入浴介助など

ヘルパーの夜間訪問
毎日深夜

安否確認、室温調整など



「思いやりのまちプロジェクト」始動します!

NPO法人の
ちにやさしいまちづくり
ぼほぼねっとは、小松市の在宅
医療・介護の現状について調査を進め、
ワークショップを開いて、療養者と家族、
医療・保健・福祉従事者や市民の皆様
に話を聞きました。問題を洗い出し、ニーズに耳を傾け、
「住み慣れた地域で自分らしく住み続けるために、
あったらいいなと思うもの」を検討した結果、いろ
ろなアイデアが生まれました。

例えば、「寝たきりになっても介護者が疲れない仕組み」「障
害児が学校を卒業した後に活躍できる場」「企業の協力」「各
町内で気楽に立ち寄ることができる場」「おいしい嚥下調整食
が食べられるカフェ」「ITボランティア講習」「命の授業」「次
世代教育の機会」などです。これらを実現させるために、「思
いやりのまちプロジェクト」が誕生しました。

2月8日にこまつ芸術劇場うららで開催した市民公開講座
では、会場の一角に「ぼほぼタウン」を開設し、介護や療
養にかかわる相談を聞いたり、介護食を試食したり、指
ヨガを体験できるコーナーを設けるなど、「思いやりの
まち」をイメージした活動を実践し、好評を得ました。

「思いやりのまちプロジェクト」に参加してくだ
さる方を募集しています。その一環として、4月
から月に1階、「ぼほぼいのちの学校」とし
て勉強会や情報交換、仲間づくりの場を
設けるなど、さまざまな活動を展開
していきます。皆さん、一緒
に活動していきませんか?



在宅ケア [施設紹介]

国民健康保険 小松市民病院 緩和ケア病棟

〒923-0860 小松市向本折町水60

TEL. 0761-22-7111
(内 2510)

FAX. 0761-21-7199

E-mail: kango-kanwa@hosp.komatsu.ishikawa.jp
http://www.hosp.komatsu.ishikawa.jp/

平成21年5月 開設

スタッフ 医師: 2名

看護師: 16名

その他: 3名

病床 10床 全室個室

緩和ケア外来日

毎週火、水曜日 (8:30 ~ 11:30) 予約制 (紹介の場合、事前に診療情報提供書)

相談・見学の受け入れについて

地域連携室内 がん相談支援センター連絡のうえ可能

問い合わせ窓口

地域連携室内 がん相談支援センター

在宅ホスピスへの対応

がん相談支援センター MSW と連携し、介護サービスの利用や退院調整に取り組んでいます

その他の特色など

緩和ケア病棟は木目調であたたかい雰囲気の中です。催し物などを行うラウンジのほか、面会に来られたご家族の方が利用可能な家族室やキッチンなども設けてあります。病棟のラウンジからは四季折々の白山連邦の眺望を楽しむ事ができます。特別な病棟や施設を連想されるか知れませんが、緩和ケア病棟では“あなたらしく生きることをお手伝いすること”そのものを支援しています。

患者さんにとってより良い療養環境について共に考え、満足が得られる療養環境を整えています。病院・在宅などの場所を問わず、各医療機関や地域との連携を図り、切れ目ない緩和ケアを提供できるように調整しております。患者さんにとって入院という非日常をより日常に近づけたという看護師の思いのもと取り組んでおります。

しんたに医院

〒923-0801 小松市園町二67-1

TEL. 0761-23-2255

FAX. 0761-23-2001

http://nttbj.itp.ne.jp/0761232255/index.html.

在宅療養支援診療所

標榜診療科

内科

呼吸器内科

アレルギー科

平成19年11月9日 開設

スタッフ 医師: 1名 看護師: 4名 その他: 5名

病床

訪問可能地域 医院周辺のみ

★ 24時間対応 【電話連絡を受けられる】 (夜間留守番電話)

併設事業

× ディサービス × 居宅介護支援事業所
× ディケア × ショートステイ

在宅療養の実施状況

× 一般在宅医療
× 在宅緩和ケア

可能な医療処置

× 褥そう処置 × 人工呼吸器 × 気管カニューレ
× 吸引処置 × 在宅酸素 × 麻薬の使用
× 持続皮下注 × 中心静脈栄養 × 点滴
× 胃ろう × 経鼻経管栄養 × 人工肛門
× 膀胱留置カテーテル × 腹膜透析

在宅での看取り件数(年間)

患者がターミナルになった場合の処遇について

医療機関に入院を勧める
介護・福祉施設への入所を勧める
望めば最後まで在宅支援が可能

支援が可能な患者

× 小児患者 × 神経難病患者 × 精神疾患
× 重度障害小児 × 認知症合併患者

主に連携している医療機関

小松ソフィア病院、小松市民病院、
やわたメディカルセンター

その他の特色など

主に連携している訪問看護ステーション

みなとクリニック

〒923-0867 小松市幸町3-92
TEL. 0761-20-3710
FAX. 0761-20-3711

平成12年 開設

スタッフ 医師: 1名 看護師: 2名 その他: 2名

病 床 無し

訪問可能地域 当クリニックより半径約5~6km

★ 24時間対応 【電話連絡を受けられる】

併設事業

× ディサービス × 居宅介護支援事業所
× ディケア × ショートステイ

在宅療養支援診療所

標榜診療科

内科
外科
消化器科

在宅療養の実施状況

○ 一般在宅医療
× 在宅緩和ケア

在宅での看取り件数(年間)

1~2件

患者がターミナルになった場合の処遇について

× 医療機関に入院を勧める
× 介護・福祉施設への入所を勧める
○ 望めば最期まで在宅支援が可能

主に連携している医療機関

小松市民病院

主に連携している訪問看護ステーション

ハケアやわた、リハケア芦城

可能な医療処置

○ 褥そう処置 × 人工呼吸器 × 気管カニューレ
× 吸引処置 × 在宅酸素 ○ 麻薬の使用
× 持続皮下注 × 中心静脈栄養 ○ 点滴
× 胃ろう ○ 経鼻経管栄養 ○ 人工肛門
× 膀胱留置カテーテル × 腹膜透析

支援が可能な患者

× 小児患者 × 神経難病患者 × 精神疾患
× 重度障害小児 × 認知症合併患者

その他の特色など

ご家族の希望に沿います。

金戸医院

〒923-0964 小松市今江町7丁目235番地
TEL. 0761-22-0129
FAX. 0761-22-1560

昭和56年10月1日 開設

スタッフ 医師: 1名 看護師: 3名 その他: 2名

病 床 無し

訪問可能地域 小松市

★ 24時間対応 【電話連絡を受けられる】

併設事業

× ディサービス × 居宅介護支援事業所
× ディケア × ショートステイ

その他

標榜診療科

内科
消化器科

在宅療養の実施状況

○ 一般在宅医療
× 在宅緩和ケア

在宅での看取り件数(年間)

3件

患者がターミナルになった場合の処遇について

× 医療機関に入院を勧める
× 介護・福祉施設への入所を勧める
○ 望めば最後まで在宅支援が可能

主に連携している医療機関

小松市民病院、やわたメディカルセンター、
金沢脳神経外科病院

主に連携している訪問看護ステーション

訪問看護ステーション

リハケアやわた、リハケア?

訪問看護ステーションかけはし

訪問看護ステーションゆきあい

訪問看護ステーションはなはな

可能な医療処置

× 褥そう処置 × 人工呼吸器 ○ 気管カニューレ
× 吸引処置 ○ 在宅酸素 ○ 麻薬の使用
× 持続皮下注 × 中心静脈栄養 ○ 点滴
○ 胃ろう × 経鼻経管栄養 × 人工肛門
○ 膀胱留置カテーテル × 腹膜透析

支援が可能な患者

× 小児患者 × 神経難病患者 × 精神疾患
× 重度障害小児 ○ 認知症合併患者

その他の特色など

見谷内科医院

〒923-0851 小松市北浅井町ハ77

TEL. 0761-22-0885

FAX. 0761-22-0775

http://drmitani.com/

昭和57年4月1日 開設

スタッフ 医師: 1名 看護師: 4名 その他: 4名

病 床 無し

訪問可能地域 小松市内

★ 24時間対応 【電話連絡を受けられる】
【往診ができる(必要時対応)】

併設事業

- × ディサービス ○ 居宅介護支援事業所
- ディケア × ショートステイ
- その他 訪問看護ステーション
小規模多機能型施設

在宅療養の実施状況

- 一般在宅医療
- × 在宅緩和ケア

在宅での看取り件数(年間)

17件

患者がターミナルになった場合の処遇について

- × 医療機関に入院を勧める
- × 介護・福祉施設への入所を勧める
- 望めば最後まで在宅支援が可能

主に連携している医療機関

小松市民病院、やわたメディカルセンター

主に連携している訪問看護ステーション

訪問看護ステーションゆきあい

在宅療養支援診療所

標榜診療科

内科
消化器科

可能な医療処置

- 褥そう処置 × 人工呼吸器 ○ 気管カニューレ
- 吸引処置 ○ 在宅酸素 ○ 麻薬の使用
- × 持続皮下注 × 中心静脈栄養 ○ 点滴
- × 胃ろう ○ 経鼻経管栄養 ○ 人工肛門
- 膀胱留置カテーテル × 腹膜透析
- その他

支援が可能な患者

- × 小児患者 × 神経難病患者 × 精神疾患
- × 重度障害小児 ○ 認知症合併患者

その他の特色など

十慈医院

〒923-0926 小松市龍助町42

TEL. 0761-22-0333

FAX. 0761-22-0366

E-mail: juji-clinic@siren.ocn.jp

http://juji-clinic.com

平成22年9月29日 開設

スタッフ 医師: 1名 看護師: 4名 その他: 2名

病 床 3床

訪問可能地域 旧市街地

× 24時間対応

併設事業

- × ディサービス × 居宅介護支援事業所
- × ディケア × ショートステイ

在宅療養の実施状況

- 一般在宅医療
- 在宅緩和ケア(今後予定がある)

在宅での看取り件数(年間)

0件

患者がターミナルになった場合の処遇について

- × 医療機関に入院を勧める
- × 介護・福祉施設への入所を勧める
- 望めば最後まで在宅支援が可能

主に連携している医療機関

小松ソフィア病院、森田病院、小松市民病院、
やわたメディカルセンター

主に連携している訪問看護ステーション

はなはな訪問看護ステーション

その他

標榜診療科

外科
大腸外科
肛門外科
内科
内視鏡内科
消化器内科
胃腸内

可能な医療処置

- 褥そう処置 × 人工呼吸器 ○ 気管カニューレ
- 吸引処置 ○ 在宅酸素 ○ 麻薬の使用
- × 持続皮下注 × 中心静脈栄養 ○ 点滴
- × 胃ろう ○ 経鼻経管栄養 ○ 人工肛門
- 膀胱留置カテーテル × 腹膜透析

支援が可能な患者

- × 小児患者 × 神経難病患者 × 精神疾患
- × 重度障害小児 ○ 認知症合併患者

その他の特色など

勝木医院

〒923-0926 小松市竜助町14
TEL. 0761-22-2171
FAX. 0761-22-9351

スタッフ 医師: 2名

病 床 無し

訪問可能地域 旧小松市内及び近郊

× 24時間対応

併設事業

× ディサービス × 居宅介護支援事業所
× ディケア × ショートステイ

標榜診療科

内科
耳鼻咽喉科

在宅療養の実施状況

一般在宅医療
× 在宅緩和ケア

在宅での看取り件数(年間)

1件

患者がターミナルになった場合の処遇について

医療機関に入院を勧める
介護・福祉施設への入所を勧める
望めば最後まで在宅支援が可能

主に連携している医療機関

主に連携している訪問看護ステーション

可能な医療処置

× 褥そう処置 × 人工呼吸器 × 気管カニューレ
× 吸引処置 × 在宅酸素 × 麻薬の使用
× 持続皮下注 × 中心静脈栄養 × 点滴
× 胃ろう × 経鼻経管栄養 × 人工肛門
× 膀胱留置カテーテル × 腹膜透析

支援が可能な患者

× 小児患者 × 神経難病患者 × 精神疾患
× 重度障害小児 ○ 認知症合併患者

その他の特色など

小松みなみ診療所

〒923-0304 小松市下粟津町み-1
TEL. 0761-43-0375
FAX. 0761-43-0353
http://www16.ocn.ne.jp/~ksc/

昭和60年 開設

スタッフ 医師: 1名 看護師: 4名 その他: 6名

病 床 無し

訪問可能地域 小松市 南部地域

★ 24時間対応 【電話連絡を受けられる】

併設事業

○ ディサービス ○ 居宅介護支援事業所
× ディケア × ショートステイ

在宅療養支援診療所

標榜診療科

内科
小児科

在宅療養の実施状況

○ 一般在宅医療
○ 在宅緩和ケア

在宅での看取り件数(年間)

3件

患者がターミナルになった場合の処遇について

× 医療機関に入院を勧める
× 介護・福祉施設への入所を勧める
○ 望めば最後まで在宅支援が可能ですが、
病状によります。

主に連携している医療機関

小松市民病院、やわたメディカルセンター、
東野病院、寺井病院

主に連携している訪問看護ステーション

リハケアやわた、リハケア芦城、はなはな、かけはし、
ゆきあい

可能な医療処置

○ 褥そう処置 × 人工呼吸器 × 気管カニューレ
× 吸引処置 ○ 在宅酸素 ○ 麻薬の使用
× 持続皮下注 × 中心静脈栄養 ○ 点滴
○ 胃ろう × 経鼻経管栄養 ○ 人工肛門
○ 膀胱留置カテーテル × 腹膜透析

支援が可能な患者

× 小児患者 ○ 神経難病患者 × 精神疾患
× 重度障害小児 ○ 認知症合併患者

その他の特色など

医療法人社団さくら会 森田病院

〒923-8507 小松市園町水99-1
TEL. 0761-21-1555
 FAX. 0761-22-8734
 E-mail: office@morit-hospital.jp
 http://morita-hospital.jp/

平成5年4月1日 **昭和46年** 開設

スタッフ 医師: 10名 看護師: 50名 その他: 40名

病 床 有り

訪問可能地域

★ 24時間対応 【電話連絡を受けられる】

併設事業

× ディサービス ○ 居宅介護支援事業所
 ○ ディケア ○ ショートステイ

その他

標榜診療科

整形外科
 内科
 外科
 麻酔科
 眼科

在宅療養の実施状況

一般在宅医療
 在宅緩和ケア

在宅での看取り件数(年間)

患者がターミナルになった場合の処遇について

医療機関に入院を勧める
 介護・福祉施設への入所を勧める
 望めば最後まで在宅支援が可能
 その他

主に連携している医療機関

主に連携している訪問看護ステーション

可能な医療処置

褥そう処置 人工呼吸器 気管カニューレ
 吸引処置 在宅酸素 麻薬の使用
 持続皮下注 中心静脈栄養 点滴
 胃ろう 経鼻経管栄養 人工肛門
 膀胱留置カテーテル 腹膜透析

支援が可能な患者

小児患者 神経難病患者 精神疾患
 重度障害小児 認知症合併患者

その他の特色など

ディケア 居宅介護支援事業所が有りますのでぜひ

中川外科医院

〒923-0961 小松市向本折町 ㊦55
TEL. 0761-22-1268
 FAX. 0761-21-6704

昭和38年 開設

スタッフ 医師: 2名 看護師: 6名

病 床 無し

訪問可能地域

★ 24時間対応 【電話連絡を受けられる】

併設事業

その他

標榜診療科

外科
 整形外科
 消化器科内科
 肛門科

在宅療養の実施状況

× 一般在宅医療
 × 在宅緩和ケア

在宅での看取り件数(年間)

2件

患者がターミナルになった場合の処遇について

○ 医療機関に入院を勧める
 × 介護・福祉施設への入所を勧める
 ○ 望めば最後まで在宅支援が可能

主に連携している医療機関

小松市民病院、やわたメディカルセンター

主に連携している訪問看護ステーション

どこでも

可能な医療処置

○ 褥そう処置 × 人工呼吸器 ○ 気管カニューレ
 × 吸引処置 ○ 在宅酸素 ○ 麻薬の使用
 × 持続皮下注 ○ 中心静脈栄養 ○ 点滴
 × 胃ろう ○ 経鼻経管栄養 ○ 人工肛門
 ○ 膀胱留置カテーテル × 腹膜透析

支援が可能な患者

× 小児患者 × 神経難病患者 × 精神疾患
 × 重度障害小児 × 認知症合併患者

その他の特色など

医療法人社団 向出医院

〒923-0825 小松市西軽海町1-47
TEL. 0761-47-0222
 FAX. 0761-47-0223
 E-mail: m-gugi-c@violin.ocn.ne.jp

昭和43年9月15日 開設

スタッフ 医師: 1名 看護師: 3名

病 床 無し

訪問可能地域 3km 以内

★ 24時間対応 【電話連絡を受けられる】
 【往診ができる(必要時対応)】

併設事業

- × ディサービス × 居宅介護支援事業所
- × ディケア × ショートステイ
- その他 グループホーム

在宅療養の実施状況

- 一般在宅医療
- 在宅緩和ケア

在宅での看取り件数(年間)

4~5件

患者がターミナルになった場合の処遇について

- × 医療機関に入院を勧める
- × 介護・福祉施設への入所を勧める
- 望めば最後まで在宅支援が可能
- その他

患者の希望通りにする

主に連携している医療機関

やわたメディカルセンター、小松市民病院、芳珠記念病院

主に連携している訪問看護ステーション

ホームナースセンター

可能な医療処置

- 褥そう処置 × 人工呼吸器 × 気管カニューレ
- 吸引処置 ○ 在宅酸素 ○ 麻薬の使用
- × 持続皮下注 × 中心静脈栄養 × 点滴
- × 胃ろう ○ 経鼻経管栄養 ○ 人工肛門
- 膀胱留置カテーテル × 腹膜透析

支援が可能な患者

- × 小児患者 × 神経難病患者 × 精神疾患
- × 重度障害小児 ○ 認知症合併患者

その他の特色など

内科一般の検査が可能です。
 X線、X線CT、超音波(心胸腹部)
 内視鏡(上部・下部)心電図、骨密度、肺機能

在宅療養支援診療所

標榜診療科

- 内科
- 消化器科
- 放射線科
- 小児科

田谷泌尿器科医院

〒923-0801 小松市園町二29-1
TEL. 0761-23-0888
 FAX. 0761-23-0889
 E-mail: info@cl.tayakai.or.jp
 http://www.tayakai.or.jp/

昭和57年11月 開設

スタッフ 医師: 7名 看護師: 26名 その他: 37名

病 床 有り

訪問可能地域 小松市・能美市・加賀市

★ 24時間対応 【往診ができる(必要時対応)】

併設事業

- × ディサービス ○ 居宅介護支援事業所
- ディケア ○ ショートステイ

在宅療養の実施状況

- 一般在宅医療
- 在宅緩和ケア(今後予定がある)

在宅での看取り件数(年間)

2件

患者がターミナルになった場合の処遇について

- × 医療機関に入院を勧める
- × 介護・福祉施設への入所を勧める
- 望めば最後まで在宅支援が可能
- その他

当院での看取りが可能

主に連携している医療機関

小松市民病院、徳久医院、やわたメディカルセンター

主に連携している訪問看護ステーション

訪問看護ステーション小松

可能な医療処置

- 褥そう処置 × 人工呼吸器 × 気管カニューレ
- 吸引処置 ○ 在宅酸素 ○ 麻薬の使用
- × 持続皮下注 ○ 中心静脈栄養 ○ 点滴
- 胃ろう ○ 経鼻経管栄養 ○ 人工肛門
- 膀胱留置カテーテル ○ 腹膜透析
- 在宅血液透析

支援が可能な患者

- × 小児患者 ○ 神経難病患者 × 精神疾患
- × 重度障害小児 ○ 認知症合併患者

その他の特色など

泌尿器科全般における治療(外来・入院・手術)、また、透析治療(血液・腹膜)を行っています。
 シャントに関わる手術も行っています。地域のかかりつけ医として、往診や24時間体制で患者様・家族様に安心して医療・介護を受けていただけるように努めております。

標榜診療科

- 泌尿器科

東野病院

〒923-8510 小松市今江町7-468
TEL. 0761-22-0623
 FAX. 0761-22-0634
 E-mail: higashinoinfo@arrow.ocn.ne.jp
 http://nttbj.itp.ne.jp/0761220623/index.html

昭和30年9月5日 開設

スタッフ 医師: 3名 + 歯科医師 看護師: 26名 その他: 2名

病 床 42床

訪問可能地域 小松市

★ 24時間対応 【電話連絡を受けられる】

併設事業

その他

標榜診療科

外科
 内科
 胃腸科
 循環器科
 整形外科
 眼科
 小児科
 歯科

在宅療養の実施状況

- 一般在宅医療
- 在宅緩和ケア(今後予定がある)

在宅での看取り件数(年間)

1件

患者がターミナルになった場合の処遇について

- 医療機関に入院を勧める
- 介護・福祉施設への入所を勧める
- 望めば最後まで在宅支援が可能

主に連携している医療機関

自院

主に連携している訪問看護ステーション

無し

可能な医療処置

- 褥そう処置 × 人工呼吸器 ○ 気管カニューレ
- 吸引処置 ○ 在宅酸素 ○ 麻薬の使用
- × 持続皮下注 × 中心静脈栄養 ○ 点滴
- 胃ろう ○ 経鼻経管栄養 ○ 人工肛門
- 膀胱留置カテーテル × 腹膜透析

支援が可能な患者

- × 小児患者 × 神経難病患者 × 精神疾患
- × 重度障害小児 ○ 認知症合併患者

その他の特色など

医療法人社団愛康会 小松ソフィア病院

〒923-0861 小松市沖周辺土地区画整理事業地内仮地番5街区30号
TEL. 0761-22-0751(代)
 FAX. 0761-22-0725
 http://www.katou-hosp.jp/

昭和16年 開設

スタッフ 医師: 23名 看護師: 49名 その他: 31名

病 床 有り

訪問可能地域 小松市

★ 24時間対応 【電話連絡を受けられる】
 【往診ができる(必要時対応)】

併設事業

- × ディサービス ○ 居宅介護支援事業所
- × ディケア × ショートステイ

在宅療養の実施状況

- 一般在宅医療
- 在宅緩和ケア

在宅での看取り件数(年間)

7件

患者がターミナルになった場合の処遇について

- 医療機関に入院を勧める
- 介護・福祉施設への入所を勧める
- × 望めば最後まで在宅支援が可能
- その他

いずれの項目も対応可能、患者・家族と相談し決定していく

主に連携している医療機関

医療法人社団仁志会

主に連携している訪問看護ステーション

医療法人社団愛康会 訪問看護ステーションはなはな

可能な医療処置

- 褥そう処置 × 人工呼吸器(要相談) × 気管カニューレ
- 吸引処置 ○ 在宅酸素 ○ 麻薬の使用
- × 持続皮下注 ○ 中心静脈栄養 ○ 点滴
- 胃ろう × 経鼻経管栄養 × 人工肛門
- 膀胱留置カテーテル × 腹膜透析(要相談)

支援が可能な患者

- × 小児患者 × 神経難病患者 × 精神疾患
- × 重度障害小児 ○ 認知症合併患者

その他の特色など

- チーム医療を病院の柱に据え、発症予防から在宅医療まで地域の方々の健康管理をサポートします。さらに、専門外来を数多くそろえ地域での高度医療を提供します。
- 6つのチーム医療
 (機能回復、生活習慣病、呼吸器、腎臓・透析、感染・防災、地域連携)を提供
 - 石川県肝疾患医療機関と認定され専門的診療、治療を実施
 - 血液透析監視機 15 台稼働(夜間透析、臨時透析)
 - 常勤の在宅訪問診療専門医が在籍
 (機能強化型在宅療養支援病院、24 時間対応、訪問看護ステーションはなはなの連携)

標榜診療科

山本歯科クリニック

〒923-0811 小松市白江町ワ11

TEL. 0761-21-1163

FAX. 0761-21-1163

E-mail: kazyama@mgb.biglobe.ne.jp

http://plus.dentamap.jp/hplus/user/yamamotodc504/

平成15年6月12日 開設

スタッフ 歯科医師: 1名

歯科衛生士: 3名

その他: 2名

悪性腫瘍の手術前後や化学療法中の患者の
歯科治療・口腔ケアをしているか

していないが受け入れる用意がある

在宅患者への
訪問歯科診療や口腔ケアを行っているか

これから行う予定がある

次の医療措置が必要な患者の訪問歯科診療や口腔ケアが可能か

- × 麻薬の使用
- × 人工呼吸器
- × 気管カニューレ
- × 吸引処置
- × 在宅酸素
- × 経鼻経管栄養
- × 持続皮下注
- × 中心静脈栄養
- × 点滴
- × 胃ろう
- × その他

その他の特色など

次の患者の訪問歯科診療が可能か

- × 重度障害小児・者
- × 神経難病患者
- × 認知症合併患者

あまいわ歯科医院

〒923-0957 小松市本折町109

TEL. 0761-22-1371

FAX. 0761-22-5330

E-mail: skyrock@tvk.ne.jp

平成10年 開設

スタッフ 歯科医師: 1名

その他: 1名

悪性腫瘍の手術前後や化学療法中の患者の
歯科治療・口腔ケアをしているか

他医療機関へ送る

在宅患者への
訪問歯科診療や口腔ケアを行っているか

いいえ

次の医療措置が必要な患者の訪問歯科診療や口腔ケアが可能か

- × 麻薬の使用
- × 人工呼吸器
- × 気管カニューレ
- × 吸引処置
- × 在宅酸素
- × 経鼻経管栄養
- × 持続皮下注
- × 中心静脈栄養
- × 点滴
- × 胃ろう
- × その他

その他の特色など

養護老人ホームに、定期的に訪問しています。自宅への訪問については、要請があれば、できるだけすぐに対応するようにしています。

次の患者の訪問歯科診療が可能か

- × 重度障害小児・者
- × 神経難病患者
- × 認知症合併患者

医療法人社団 浜野歯科医院

〒923-0866 小松市白嶺町ハ2-23

TEL. 0761-23-2060

FAX. 0761-21-4535

http://www.hamanodc.jp/

昭和63年10月 開設

スタッフ 歯科医師: 4名

歯科衛生士: 9名

その他: 13名

悪性腫瘍の手術前後や化学療法中の患者の
歯科治療・口腔ケアをしているか

している

在宅患者への
訪問歯科診療や口腔ケアを行っているか

いいえ

次の医療措置が必要な患者の訪問歯科診療や口腔ケアが可能か

- × 麻薬の使用
- × 人工呼吸器
- × 気管カニューレ
- × 吸引処置
- × 在宅酸素
- × 経鼻経管栄養
- × 持続皮下注
- × 中心静脈栄養
- × 点滴
- × 胃ろう
- × その他

その他の特色など

日本歯周病学会認定歯科衛生士7名を中心に予防を病院の柱と考え、小児から大人までお口の管理をおこなっています。基本的に院内が中心で訪問はおこなっていません。

次の患者の訪問歯科診療が可能か

- × 重度障害小児・者
- × 神経難病患者
- × 認知症合併患者

中山歯科医院

〒923-0926 小松市龍助町92-2

TEL. 0761-22-7680

FAX. 0761-22-7680

平成19年 開設

スタッフ 歯科医師: 2名

歯科衛生士: 2名

その他: 4名

悪性腫瘍の手術前後や化学療法中の患者の
歯科治療・口腔ケアをしているか

している

在宅患者への
訪問歯科診療や口腔ケアを行っているか

はい

次の医療措置が必要な患者の訪問歯科診療や口腔ケアが可能か

- × 麻薬の使用
- × 人工呼吸器
- × 気管カニューレ
- × 吸引処置
- × 在宅酸素
- × 経鼻経管栄養
- × 持続皮下注
- × 中心静脈栄養
- × 点滴
- × 胃ろう
- × その他

その他の特色など

次の患者の訪問歯科診療が可能か

- × 重度障害小児・者
- × 神経難病患者
- 認知症合併患者

聞き書きボランティア

「聞き書き」とは高齢者から話を聞き、その内容を一冊の本（冊子）にして贈ること。語り手は人生を振り返り、自分のしたことの意義を認め、「まだやることがある」と気付くこともある。聞き手は語り手の知識や経験から人生の教訓を得ることができる。双方にとって意義深い活動である。「NPO 法人いのちにやさしいまちづくり ぽぽぽねっと」は5、6月に計3日のコースで金沢大学を会場に「聞き書き」ボランティア養成講座を開催している。

訪問看護ステーション小松

〒923-0801 小松市園町二29番地1

TEL. 0761-23-7116

FAX. 0761-23-7119

E-mail: houmon@cl.tayakai.or.jp

http://www.tayakai.or.jp

平成12年3月31日 開設

スタッフ 看護師: 3名

訪問可能地域 小松市、能美市（その他応相談）

★ 24時間対応

在宅支援で可能な医療処置

- 褥そう処置 ○人工呼吸器 ○気管カニューレ
- 吸引処置 ○在宅酸素 ○麻薬の使用 ○持続皮下注
- 中心静脈栄養 ○点滴 ○胃ろう ○経鼻経管栄養
- 人工肛門 ○膀胱留置カテーテル ○腹膜透析
- その他（持続皮下注は未経験ですが対応します。）

次の患者の在宅支援が可能か

- × 小児患者 ○神経難病患者 × 精神疾患
- × 重度障害小児 ○認知症合併患者 × その他

在宅での看取り件数（直近の指示書の期間が半年以内）

1件

自宅や病院でない場所での看取り経験

無し

連携している医療機関

小松市、能美市、加賀市、金沢市の医療機関

連携している居宅介護支援事業所が所属する事業所

小松市、能美市の居宅介護支援事業所

連携している訪問看護ステーション等サービス事業所

小松市内の訪問看護ステーション

併設事業所

田谷泌尿器科医院、通所リハビリセンターおれんじ、
介護相談センター田谷医院

その他の特色など

利用者様が、その人らしい自立した在宅生活を送れるよう看護します。
透析の利用者様の訪問を多く受け入れています。

訪問看護ステーションはなはな

〒923-0921 小松市土居原町291番5の4

TEL. 0761-48-8666

FAX. 0761-48-8868

E-mail: hana87hana87@huga.ocn.ne.jp

http://www.katou-hosp.jp/

平成19年7月1日 開設

スタッフ 看護師: 6名 PT: 1名 ST: 1名 その他: 1名

訪問可能地域 小松市、能美市、加賀市

★ 24時間対応

在宅支援で可能な医療処置

- 褥そう処置 ○人工呼吸器 ○気管カニューレ
- 吸引処置 ○在宅酸素 ○麻薬の使用 ○持続皮下注
- 中心静脈栄養 ○点滴 ○胃ろう ○経鼻経管栄養
- 人工肛門 ○膀胱留置カテーテル ○腹膜透析

次の患者の在宅支援が可能か

- × 小児患者 ○神経難病患者 × 精神疾患
- × 重度障害小児 ○認知症合併患者 × その他

在宅での看取り件数（直近の指示書の期間が半年以内）

7件

自宅や病院でない場所での看取り経験

無し

連携している医療機関

小松市、能美市、加賀市、金沢市の医療機関

連携している居宅介護支援事業所が所属する事業所

小松市、能美市の居宅介護支援事業所

連携している訪問看護ステーション等サービス事業所

小松市内の訪問看護ステーション

併設事業所

小松ソフィア病院、ソフィア居宅介護支援事業所

その他の特色など

在宅療養支援病院である小松ソフィア病院との連携で24時間対応しており、安心して任せて頂ける様に在宅療養を支援、サポートします。

訪問看護ステーションゆきあい

〒923-0851 小松市北浅井町ハ77番地

TEL. 0761-22-3380

FAX. 0761-23-3608

http://drmitani.com/

平成5年6月1日 開設

スタッフ 看護師: 4名

訪問可能地域 小松市、能美市、加賀市

★ 24時間対応

在宅支援で可能な医療処置

- 褥そう処置 ○人工呼吸器 ○気管カニューレ
- 吸引処置 ○在宅酸素 ○麻薬の使用 ○持続皮下注
- 中心静脈栄養 ○点滴 ○胃ろう ○経鼻経管栄養
- 人工肛門 ○膀胱留置カテーテル ○腹膜透析

次の患者の在宅支援が可能か

- × 小児患者 ○神経難病患者 ○精神疾患
- × 重度障害小児 ○認知症合併患者 × その他

在宅での看取り件数（直近の指示書の期間が半年以内）

3件

自宅や病院でない場所での看取り経験

有り（小規模多機能型施設）

連携している医療機関

小松市、能美市、加賀市、金沢市内の医療機関

連携している居宅介護支援事業所が所属する事業所

小松市、能美市内の居宅介護支援事業所

連携している訪問看護ステーション等サービス事業所

小松市内の訪問看護ステーション

併設事業所

見谷内科医院、みにに居宅介護支援事業所
みにに通所リハビリテーション、
小規模多機能型施設いちえんそう

その他の特色など

在宅療養支援診療所である見谷内科医院と連携しています。
関連施設の小規模多機能型施設いちえんそうや、
さわらびショートステイでの看取りの支援にも協力しています。

訪問看護ステーションリハケアやわた

〒923-8551 小松市八幡イ12番地7

TEL. 0761-47-1570

FAX. 0761-47-8101

E-mail: honobono@katsuki-g.com

http://www.yawatamedical.com/

平成11年9月1日 開設

スタッフ 看護師: 10名 PT: 2名 OT: 2名
介護職（ヘルパー）: 1名 その他: 1名

訪問可能地域 小松市、能美市（その他応相談）

★ 24時間対応

在宅支援で可能な医療処置

- 褥そう処置 ○人工呼吸器 ○気管カニューレ
- 吸引処置 ○在宅酸素 ○麻薬の使用 × 持続皮下注
- 中心静脈栄養 ○点滴 ○胃ろう ○経鼻経管栄養
- 人工肛門 ○膀胱留置カテーテル ○腹膜透析
- その他（持続皮下注は未経験ですが対応します。）

次の患者の在宅支援が可能か

- 小児患者 ○神経難病患者 ○精神疾患
- 重度障害小児 ○認知症合併患者 × その他

在宅での看取り件数（直近の指示書の期間が半年以内）

6件

自宅や病院でない場所での看取り経験

有り（住宅型有料老人ホーム）

連携している医療機関

小松市、能美市、加賀市、金沢市の医療機関

連携している居宅介護支援事業所が所属する事業所

小松市、能美市の居宅介護支援事業所

連携している訪問看護ステーション等サービス事業所

小松市内の訪問看護ステーション

併設事業所

やわたメディカルセンター、やわた居宅介護支援事業所、
通所リハビリテーションやわた健康スタジオ、
通所介護やわたデイスタジオ、ヘルパーステーションやわた

その他の特色など

子供からお年寄りまでを対象として対応させていただいています。訪問リハビリスタッフ、訪問看護師、ヘルパースタッフと連携をとり、利用者様、ご家族が希望するサービスを提供していきます。

訪問看護ステーションリハケア芦城

〒923-8552 小松市土居原町175番地
TEL. 0761-23-0112
 FAX. 0761-23-0115
 E-mail: rehacare-ro@katsuki-g.com
 http://www.yawatamedical.com/

平成25年5月1日 開設
 スタッフ 看護師: 3名 PT: 1名 OT: 1名
 訪問可能地域 小松市全域(主に海側)
 ★ 24時間対応

在宅支援で可能な医療処置

- 褥そう処置 ○人工呼吸器 ○気管カニューレ
- 吸引処置 ○在宅酸素 ○麻薬の使用 ○持続皮下注
- 中心静脈栄養 ○点滴 ○胃ろう ○経鼻経管栄養
- 人工肛門 ○膀胱留置カテーテル ○腹膜透析

次の患者の在宅支援が可能か

- 小児患者 ○神経難病患者 ○精神疾患
- 重度障害小児 ○認知症合併患者 × その他

在宅での看取り件数(直近の指示書の期間が半年以内)
 3件

自宅や病院でない場所での看取り経験
 無し

連携している医療機関

芦城クリニック、やわたメディカルセンター

連携している居宅介護支援事業所が所属する事業所

芦城居宅介護支援事業所、やわた居宅介護支援事業所

連携している訪問看護ステーション等サービス事業所

訪問看護ステーションリハケアやわた

併設事業所

芦城クリニック、芦城居宅介護支援事業所、
 芦城クリニック健康スタジオ、丸内・芦城高齢者総合相談センター

その他の特色など

「笑顔と安心のある地域社会を築くウェルネスイノベーション」を目指して、
 医療・介護・予防が一体となったサービスを提供します。

マルホ薬局

〒923-0918 小松市土居原町509-1
TEL. 0761-22-4522
 FAX. 0761-22-4382

昭和23年 開設
 スタッフ 薬剤師: 2名

在宅患者訪問薬剤管理指導届出施設か

はい

訪問対象患者数 0名

訪問可能地域

薬剤の配達が可能か

はい

配達可能地域 半径10km(市内)

その他の特色など

軽海あおぞら薬局

〒923-0825 小松市西軽海町1-137
TEL. 0761-47-8931
 FAX. 0761-47-8932
 E-mail: karumi@aozorayakkyoku.jp

平成22年9月1日 開設
 スタッフ 薬剤師: 2名

在宅患者訪問薬剤管理指導届出施設か

はい

訪問対象患者数

訪問可能地域 小松市内

薬剤の配達が可能か

はい

配達可能地域 小松市内

その他の特色など

若杉アルプ薬局

〒923-0832 小松市若杉町3丁目31番地
TEL. 0761-48-5522
 FAX. 0761-48-5521
 E-mail: wakasugi@alp-grp.jp
 http://www.alp-grp.jp/

昭和18年11月1日 開設
 スタッフ 薬剤師: 3名
 その他: 2名

在宅患者訪問薬剤管理指導届出施設か

はい

訪問対象患者数

訪問可能地域

薬剤の配達が可能か

はい

配達可能地域 小松市、能美市、
 白山市

その他の特色など

いのちのスープの会

「NPO 法人いのちにやさしいまちづくり ぽぽぽねっと」
 が実施している活動の一つ。毎週第一土曜日の午前10時から「しあわせのいえ」に集まり、旬の食材を使ったスープを中心としたランチを作り、食卓を囲んで語り合う。がんなどの病気を抱えても、食を通じて最期までその人らしく生きることを考える。参加者はがんなどの病気とともに生きる人やその家族、遺族、友人、医療・保健・福祉に携わる専門職員など。

小松あおぞら薬局

〒923-0961 小松市向本折町81-1

TEL. 0761-23-2024

FAX. 0761-23-5370

E-mail: komatu@aozorayakkyoku.jp

平成22年9月1日 開設

スタッフ 薬剤師: 7名

その他: 2名

在宅患者訪問薬剤管理指導届出施設か

はい

訪問対象患者数

訪問可能地域

小松市内

薬剤の配達が可能か

はい

配達可能地域

小松市内

その他の特色など

漢方 爽泉

〒923-0833 小松市八幡口2-3

TEL. 0761-47-4040

FAX. 0761-47-1172

E-mail: sousen.maeda@gmail.com

http://www.bikanpo.net/

昭和59年5月 開設

スタッフ

在宅患者訪問薬剤管理指導届出施設か

はい

訪問対象患者数

0名

訪問可能地域

薬剤の配達が可能か

いいえ

配達可能地域

その他の特色など

薬局ではなく、薬剤の配達等の仕事は出来ません。しかし長年、地域の真中でくすり屋さんとして仕事をしてきた事でもあり、店の空きスペースもあって、何か自分も含めて高齢者が学べる場にならないかと考えてもいます。まだまだお年よりを使って出来る事であると思っています。皆様には小さな情報交換の場としてご利用頂ければと思います。

前沢薬局

〒923-0911 小松市大川町3-46

TEL. 0761-22-0411

FAX. 0761-22-3601

明治 開設

スタッフ 薬剤師: 3名

在宅患者訪問薬剤管理指導届出施設か

いいえ

訪問対象患者数

0名

訪問可能地域

薬剤の配達が可能か

電話でご相談ください

配達可能地域

半径10km(市内)

その他の特色など

オムツ等の配達はしていますが、調剤はやめました。(両親高齢、私はケアマネとして常勤にはなれないので)ご来店いただければ、医療・介護の相談に応じられます。食生活のアドバイスもできます。

介護老人福祉施設 自生園

〒923-0331 小松市上荒屋町ソ4番地10

TEL. 0761-65-1800 (代)

FAX. 0761-65-1837

E-mail: info@jishoen.com

http://www.jishoen.com/

昭和60年 開設

スタッフ 嘱託医: 1名

看護師: 9名

介護職: 42名

その他: 8名

嘱託医となっている医療機関

小松ソフィア病院

連携している医療機関

芳珠記念病院

やわたメディカルセンター

堀口歯科

粟津神経サナトリウム

利用者がターミナルになった場合の対応

× 医療機関に入院

× 自宅へ帰る

○ 望めば最後まで支援

看取りの実績(2012年度)

9件

併設事業所

養護(育)老人ホーム、通所介護、
居宅介護支援事業所、短期入所生活介護、訪問入浴

その他の特色など

- ・ 重度認知症の方、医療依存度の高い方、看取りの方のケアを積極的に行っています。
- ・ 自立支援(生活改善)に力を入れています。(おむつははずし・歩けない方の歩行訓練・胃ろうははずし)
- ・ 介護の明るい未来に向けて負担の少ない介護(北欧式トランスファー)に取り組んでいます。

特別養護老人ホーム あたかの郷

〒923-0003 小松市安宅町ル1番地28

TEL. 0761-24-8800

FAX. 0761-24-8803

E-mail: asahi@atakanosato.com

http://atakanosato.com

平成14年4月1日 開設

スタッフ 嘱託医: 2名

看護師: 9名

介護職: 59名

嘱託医となっている医療機関

森田病院

連携している医療機関

森田病院

利用者がターミナルになった場合の対応

○ 医療機関に入院

× 自宅へ帰る

× 望めば最後まで支援

看取りの実績(2012年度)

0件

併設事業所

ショートステイ、グループホーム、ケアサービスセンター、
デイサービスセンター、居宅介護支援事業所、ケアハウス、
高齢者総合相談センター、小規模多機能型居宅介護

その他の特色など

「あなたらは100%」を基本方針に、あたかの郷が入居者様にとって「生活の場」であることを前提に入居者様のおもいを尊重した生活支援に務めています。食事は目で楽しみ、においや雰囲気大切に「五感で美味しく」を目標に取り組んでいる。1階には昭和の雰囲気が感じられる喫茶店、売店があります。

社会福祉法人 **松寿園** / 介護老人福祉施設 **松寿園**

〒923-0961 小松市向本折町ホ31

TEL. 0761-22-2217

FAX. 0761-23-1933

E-mail: syojyuen@yu.incl.ne.jp

http://care-net.biz/17/syojyuen/company.php

昭和46年5月 開設

スタッフ 嘱託医: 1名

看護師: 8名

介護職: 60名

その他: 25名 (調理師、事務員他)

嘱託医となっている医療機関

見谷病院

連携している医療機関

小松市民病院

やわたメディカルセンター

利用者がターミナルになった場合の対応

○医療機関に入院

○自宅へ帰る

○望めば最後まで支援

看取りの実績(2012年度)

33件

受け入れが可能な医療措置が必要な方(医療機関と連携)

- 褥そう処置 × 人工呼吸器 × 気管カニューレ
 - 吸引処置 ○在宅酸素 × 麻薬の使用 × 持続皮下注
 - × 中心静脈栄養 × 点滴 ○胃ろう × 経鼻経管栄養
 - 人工肛門 ○膀胱留置カテーテル × 腹膜透析
- (一時的な点滴は可能)

併設事業所

居宅介護支援事業、短期入所生活介護、通所介護、訪問介護、福祉用具貸与・販売事業、グループホーム、養護老人ホーム、訪問入浴

その他の特色など

介護老人保健施設 **さくら園**

〒923-0801 小松市園町ホ35番地1

TEL. 0761-21-7261

FAX. 0761-21-7262

E-mail: sakura-en@miracle.ocn.ne.jp

http://morita-hospital.jp/department/depts-list07/

平成17年5月9日 開設

スタッフ 医師: 1名

看護師: 6名

介護職: 14名

その他: 3名 (ケアマネ、PT、管理栄養士)

連携している医療機関

森田病院

利用者がターミナルになった場合の対応

○医療機関に入院

× 自宅へ帰る

○望めば最後まで支援

看取りの実績(2012年度)

6件(2013年4月~12月)

受け入れが可能な医療措置が必要な方(医療機関と連携)

- 褥そう処置 × 人工呼吸器 × 気管カニューレ
 - 吸引処置 × 在宅酸素 × 麻薬の使用 × 持続皮下注
 - × 中心静脈栄養 ○点滴 ○胃ろう ○経鼻経管栄養
 - × 人工肛門 ○膀胱留置カテーテル × 腹膜透析
- × その他

併設事業所

森田病院
森田居宅介護支援事業所

その他の特色など

英国のマギーズセンター

英国には、がん患者をサポートする「マギーズセンター」という専門施設がある。

乳がん患者だった女性の発案でつくられ、プロのスタッフが、患者とその家族や友人らに無料で、医療、精神面、経済的な観点からサポートを提供している。英国では1996年にエジンバラで開設されて以来、主要な病院に併設された17のセンターが活動している。

金沢市内にも同じようなコンセプトを持った場がほしいと毎年1回、「金沢1日マギーの日」と題した催しが開かれている。



軽費老人ホーム **ケアハウス ファミール**

〒923-0844 小松市三谷町ホ80番地

TEL. 0761-23-1800

FAX. 0761-23-7280

E-mail: info@ls.tayakai.or.jp

http://www.tayakai.or.jp

平成9年 開設

スタッフ 看護師: 名

介護職: 名

その他: 5名

連携している医療機関

協力病院: 森田病院 (訪問診療の協力はなし)

利用者がターミナルになった場合の対応

○医療機関に入院

○自宅へ帰る

× 望めば最後まで支援

看取りの実績(2012年度)

0件

受け入れが可能な医療措置が必要な方(医療機関と連携)

- × 褥そう処置 × 人工呼吸器 × 気管カニューレ
 - × 吸引処置 × 在宅酸素 × 麻薬の使用 × 持続皮下注
 - × 中心静脈栄養 × 点滴 × 胃ろう × 経鼻経管栄養
 - 人工肛門 ○膀胱留置カテーテル × 腹膜透析
- (自己管理が可能な方のみ)

併設事業所

デイサービスセンター、ケアサービスセンター、居宅介護支援事業所、高齢者総合相談センター、特別養護老人ホーム、ショートステイ、グループホーム、小規模多機能型居宅介護

その他の特色など

各種介護保険サービスで生活を支える仕組みがあり、バックアップ体制が整っています。またケアハウス独自で介護予防の取り組みの一部となる活動も行っていきます。

介護老人保健施設 レイクサイド木場

〒923-0844 小松市三谷町そ80番地

TEL. 0761-23-1800

FAX. 0761-23-7280

E-mail: info@ls.tayakai.or.jp

http://www.tayakai.or.jp

平成14年 開設

スタッフ 医師: 1名

看護師: 12名

介護職: 50名

その他: 36名 (OT,PT,相談員,事務員,栄養士,他)

連携している医療機関

やわたメディカルセンター

利用者がターミナルになった場合の対応

× 医療機関に入院

× 自宅へ帰る

○ 望めば最後まで支援

看取りの実績(2012年度)

33件

受け入れが可能な医療措置が必要な方(医療機関と連携)

- 褥そう処置 × 人工呼吸器 × 気管カニューレ
- 吸引処置 × 在宅酸素 × 麻薬の使用 × 持続皮下注
- × 中心静脈栄養 × 点滴 ○ 胃ろう × 経鼻経管栄養
- 人工肛門 ○ 膀胱留置カテーテル × 腹膜透析
- × その他

併設事業所

介護相談センターレイクサイド木場、
通所リハビリセンターレイクサイド木場

その他の特色など

四季折々に変化する美しい木場湯をのぞめる自然環境の中に建つ当施設では寄り添い、そして感じるケアをまず第一に介護する人、される人その心の通いあうケアを目指し日々、業務に励んでおります。

医療法人社団 向出医院 グループホーム さとやま

〒923-0825 小松市西軽海町1-47

TEL. 0761-47-0225

FAX. 0761-47-2118

平成22年9月10日 開設

スタッフ 嘱託医: 名

看護師: 名

介護職: 名

連携している医療機関

やわたメディカルセンター

小松市民病院

芳珠記念病院

連携している訪問看護ステーション

特になし

(向出医院看護部連携)

利用者がターミナルになった場合の対応

× 医療機関に入院

× 自宅へ帰る

○ 望めば最後まで支援

看取りの実績(2012年度)

件

受け入れが可能な医療措置が必要な方(医療機関と連携)

- 褥そう処置 × 人工呼吸器 × 気管カニューレ
- 吸引処置 × 在宅酸素 ○ 麻薬の使用 × 持続皮下注
- × 中心静脈栄養 ○ 点滴 ○ 胃ろう ○ 経鼻経管栄養
- 人工肛門 ○ 膀胱留置カテーテル × 腹膜透析
- × その他

併設事業所

医療法人社団 向出医院

その他の特色など

がん哲学外来

金沢大学附属病院麻酔科蘇生科(緩和ケアチーム)では毎週火曜日の午後、精神的な苦痛を軽減するための相談窓口を設けている。完全予約制で、前日までに予約センター(TEL076-265-2933)まで申し込めばよい。がん患者は死を意識し、自己の存在が揺らぎ、絶望してしまう苦痛(スピリチュアルペイン)に悩まされることが少なくない。このため、医療者と患者が対話を行うことで苦悩を解決できるよう支援している。

グループホーム やたの

〒923-0342 小松市矢田野町イの8

TEL. 0761-44-5151

FAX. 0761-44-1010

E-mail: gh.yatano@extra.ocn.ne.jp

平成17年7月1日 開設

スタッフ 嘱託医: 名

看護師: 1名

介護職: 18名

連携している医療機関

小松市民病院

加賀こころの病院、

福村医院

ソフィア病院、

小松みなみ診療所

岡部内科医院 等

連携している訪問看護ステーション

利用者がターミナルになった場合の対応

× 医療機関に入院

× 自宅へ帰る

○ 望めば最後まで支援

看取りの実績(2012年度)

2件

受け入れが可能な医療措置が必要な方(医療機関と連携)

- 褥そう処置 × 人工呼吸器 × 気管カニューレ
- × 吸引処置 ○ 在宅酸素 × 麻薬の使用 × 持続皮下注
- × 中心静脈栄養 ○ 点滴 × 胃ろう × 経鼻経管栄養
- × 人工肛門 ○ 膀胱留置カテーテル × 腹膜透析
- × その他

併設事業所

無し

その他の特色など

認知症があっても住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けられるような支援を行なっています。共用デイサービス(1日3名)をしています。

医療法人社団和楽仁 グループホーム陽らら

〒923-0927 小松市西町134

TEL. 0761-21-1839

FAX. 0761-21-1839

E-mail: gh-hirara@comet.ocn.ne.jp

http://www.houju.or.jp/link/hirara/hirara.html

平成17年1月10日 開設

スタッフ 准看: 4名

看護師: 1名

介護職: 15名

連携している医療機関

湯浅医院
上小松クリニック
野田歯科医院
芳珠記念病院

連携している訪問看護ステーション

なし

利用者がターミナルになった場合の対応

× 医療機関に入院
× 自宅へ帰る
○ 望めば最後まで支援

看取りの実績(2012年度)

2件

受け入れが可能な医療措置が必要な方(医療機関と連携)

× 褥そう処置 × 人工呼吸器 × 気管カニューレ
× 吸引処置 × 在宅酸素 × 麻薬の使用 × 持続皮下注
× 中心静脈栄養 × 点滴 × 胃ろう × 経鼻経管栄養
× 人工肛門 × 膀胱留置カテーテル × 腹膜透析
× その他

併設事業所

居宅介護支援事業所、共用型通所介護

その他の特色など

医療措置について、現在入居されている方が吸引、酸素、点滴が必要になった場合、支援しています。
・地域の方と体操や行事等で交流しています。
・認知症の方がご自分のペースで楽しめるよう支援しています。
・学習や臨床美術でコミュニケーションを深めています。

小規模多機能 はまひるがお

〒923-0026 小松市下牧町二95番地1

TEL. 0761-24-5080

FAX. 0761-58-0886

E-mail: hamahirugao@asahikai.net

平成25年9月1日 開設

スタッフ 看護師: 1名

介護職: 10名

その他: 1名

連携している医療機関

森田病院

連携している訪問看護ステーション

利用者がターミナルになった場合の対応

○ 医療機関に入院
× 自宅へ帰る
× 望めば最後まで支援

看取りの実績(2012年度)

0件

受け入れが可能な医療措置が必要な方(医療機関と連携)

× 褥そう処置 × 人工呼吸器 × 気管カニューレ
× 吸引処置 × 在宅酸素 × 麻薬の使用 × 持続皮下注
× 中心静脈栄養 × 点滴 × 胃ろう × 経鼻経管栄養
× 人工肛門 × 膀胱留置カテーテル × 腹膜透析
(看護師一人で対応可能であれば前向きに対応していきます)

併設事業所

特別養護老人ホーム、ショートステイ、グループホーム、
ケアサービスセンター、デイサービスセンター、
居宅介護支援事業所、ケアハウス、高齢者総合相談センター

その他の特色など

「あなたらしき100%」を基本方針に、お一人お一人の個性や思いを大切に
して、在宅生活、自宅での生活を継続できるよう支援しています。施設にお
いては、家庭的な雰囲気、環境を大切にしていきたいとの思いから食事作り、
ご利用者と一緒に買い物に出掛けています。又一日特にプログラムなどを作ら
ずにお一人お一人のペースに応じて通いの場面で過ごしていただいています。

グループホームあたかの郷

〒923-0003 小松市安宅町1-29

TEL. 0761-24-1187

FAX. 0761-24-2238

E-mail: asahi@atakanosato.com

http://www.atakanosato.com

平成17年 開設

スタッフ 嘱託医: 名

看護師: 名

介護職: 19名

連携している医療機関

森田病院
本村歯科

連携している訪問看護ステーション

利用者がターミナルになった場合の対応

○ 医療機関に入院
× 自宅へ帰る
× 望めば最後まで支援

看取りの実績(2012年度)

2件

受け入れが可能な医療措置が必要な方(医療機関と連携)

× 褥そう処置 × 人工呼吸器 × 気管カニューレ
× 吸引処置 × 在宅酸素 × 麻薬の使用 × 持続皮下注
× 中心静脈栄養 × 点滴 × 胃ろう × 経鼻経管栄養
× 人工肛門 × 膀胱留置カテーテル × 腹膜透析
× その他

併設事業所

特別養護老人ホーム、居宅介護支援事業所、
高齢者総合相談センター、老人短期入所施設、通所介護、
小規模多機能型、軽費老人ホーム、訪問介護

その他の特色など

「あなたらしき100%」を基本方針とし、お一人おひとりが、住み慣れた地
域で送ってきた「あたり前の暮らし」がいつまでも続く…、新しい住まいでの
「望む暮らし」が実現できるよう取り組んでいます。
「話す」「食す」「動く」ことを大切にどの場面にも「ありがとう」がある暮ら
しを送っていただけるよう取り組んでいます。

救急搬送の費用

救急車が1回出動するためにかかる費用は、全国平均で5
～10万円と言われている。そのすべては税金で賄われて
いるが、諸外国は有料のところもある。過去20年で救急
隊の数は微増であるのに対し、救急出動件数は激増して
おり、救急搬送の傷病の内訳をみると、約半数が軽傷である
ことから、「安易に救急車を呼び過ぎているのではないか」
という問題点を指摘する声も多い。在宅療養者については
訪問看護を役立ててほしい。

在宅で行われる主な医療処置

栄養を注入するための経管栄養

鼻から管を入れておく経鼻胃管と、腹部の皮膚から胃に直接穴を開けて管を入れ、栄養剤を注入する「胃ろう」の2種類がある。この場合、1日3回、缶やパックに入った栄養剤を、温めて接続用の管が付いた専用の袋に移し、袋の管と療養者の体についている管をつなげて栄養剤を注入する。

痰(たん)の吸引

1日数回、吸引器と吸引用のチューブを使って鼻や口、または喉に開けた穴から痰を取り除く。吸引用のチューブ以外にも、この処置に使うガーゼや手袋や水などの準備から、指導を受けることになる。

尿を自然に流すための膀胱留置カテーテルの管理

尿道口から膀胱までカテーテル(管)を通し、自然に流れ出る尿を専用の蓄尿袋に貯める方法。療養者の家族は、一定の期間ごとにカテーテルを交換する処理が必要となる。

在宅酸素療法

自力で体に十分な酸素を吸えない場合に、濃縮した酸素を発生する器械(酸素濃縮器)を自宅に設置し、常にその酸素を吸う治療法。酸素濃縮器は、ファンヒーターのような大きさで、医師の指示を受けた専門業者が設置し、退院までに自宅で使用する。

在宅人工呼吸療法

自分で呼吸ができない人が人工呼吸器を装着して呼吸を補助する治療法。在宅人工呼吸療法が必要な人には、経管栄養、膀胱留置カテーテル、痰の吸引など、いくつかの医療処置と合わせて必要となる場合が多い。

インスリンの自己注射

糖尿病でインスリンが体内に不足する場合、医師の処方に従って自分で注射して補う。

疼痛(痛み)の管理

がんなどで強い激しい痛みがあっても、鎮痛剤の内服が難しい場合に、内服以外の方法として、小ぶりの弁当箱くらいの器械を使って胸や腹部に入れた非常に細いチューブから少しずつ鎮痛剤を注入して痛みを和らげる。

創傷(きず)の処置

床ずれ(褥瘡)ができた場合、きずの汚れを洗い流し、皮膚の状態に合わせて軟膏などを塗り、ガーゼやあるいは防水加工のフィルムなどで覆う処置。



おわりに

「NPO 法人 いのちにやさしいまちづくり ぽぽぽねっと」の役割は、子供から高齢者まですべての人に対して、多様な職種や立場のボランティアをコーディネートし、行政や企業、地域の医療保健福祉関係者と協力して問題を抱えている人とその家族を支援する事業を行い、人の優しさにあふれた誰もが希望を持てるまちの実現に寄与することです。

ぽぽぽの「ぽ」は people (人々)

ぽぽぽの「ぽ」は place (場所)

ぽぽぽの「ぽ」は product (創造)

私達は、ALS (筋萎縮性側索硬化症)の患者さんとのコンサート「魂のいちばんおいしいところ」や、高齢者の話を聞いて本にまとめる「聞き書き」のボランティア養成講座、病気と食について考える「いのちのスープの会」、障害者・障害児の居場所づくり事業、子育て中の親子の育児支援などの事業を展開してきました。活動を通して出会った方々と、これからもネットワークを大切にし、小松市が「いのちにやさしいまち」であり続けることを目指して活動していきます。

これまでの活動を通して出会った方々、子育て中の方や重度の障がい、がんや難病や心の病を抱えた人とその家族、愛する人を大切な人を亡くした方、当事者の立場、医療保健福祉従事者、教育研究者、行政職や専門職の方々と共に、これからもネットワークを大切に、いのちにやさしいまちの実現を目指して活動を行っていきたく思います。

あなたが想い描く「いのちにやさしいまちづくり」のアイデアを活動に活かしてみませんか?入会金、年会費は次の通りです。ご参加を心からお待ちしています。

正会員

(個人) 入会金: 2,000 円 年会費: 10,000 円

(団体) 入会金: 2,000 円 年会費: 10,000 円(一口より)

協力会員

年会費: 3,000 円

NPO 法人 いのちにやさしいまちづくり ぽぽぽねっと

〒923-0028

石川県小松市梯町ホ 11 番 1

TEL・FAX 0761-23-7307

popopo.net77@gmail.com

A decorative graphic consisting of several overlapping hearts in various colors: yellow, purple, green, pink, orange, and light blue. The hearts are arranged in a horizontal line, with some overlapping others.

NPO法人 いのちにやさしいまちづくり ぽぽぽねっと